

第6章 高等学校教育

第1節 概要

今年度は、高等学校において、主体的・対話的で深い学びの視点も取り入れて生徒の学力向上を図り、将来への展望を抱かせるとともに、地域に貢献できる人材や社会においてリーダーシップを発揮できる人材を育成し、教員研修及び生徒指導等に取り組んだ。

(1) 「ふくしまを創る若者のプラットフォーム構築事業」

ア 地域ネットワーク推進委員の配置

県北地区の伊達高等学校、県南地区の白河旭高等学校、会津地区の喜多方高等学校、いわき地区の磐城桜が丘高校を拠点校に指定し、地域コーディネーターを1人ずつ配置した上で、県中地区の郡山東高校、南会津地区の南会津高校、相双地区の相馬総合高校を訪問校に指定して、学校と地域の協働を推進するとともに、「人材ネットワークバンク」を作成した。

イ 「若手人材」「地域人材」を活用した地域課題探究活動を支援する取組

「若手人材」「地域人材」を活用した地域課題探究活動を推進するために、県立高校に予算配分等の支援を実施した。

対象校 全県立高校

ウ 社会貢献活動コンテストの開催

復興に貢献する人材育成を目的に開催。県内の高校生が地域課題の解決に向けた取組について発表した。

エ 教員研修会の開催

地域課題探究活動を充実させ、生徒自らが正解のない問いに対して主体的に取り組む姿勢を確立するために、探究活動のプログラム作成について各校代表の教員に対して研修及び情報交換の機会を設けた。

(2) 「ふくしま高校生学びの変革支援事業」

ア 未来を担う高校生の資質・能力育成事業

(ア) 対象 県立高等学校1・2年生

(イ) 実施内容

1年生対象：県内出身の大学生との対話型のワークショップ等を実施した。

2年生対象：予備校講師等による難関大合格に向けた学習セミナー（国語・数学・英語）を実施した。

イ 進路実現のための資質・能力育成事業

(ア) 対象校 21校

(イ) 各校の取組内容

- 思考力・判断力・表現力等の養成講座
- 教員による、難関大学等の入学試験問題の研究と発展的内容に係る指導
- 生徒の実態に応じた各校独自作成による校内模擬試験等の実施

- 社会人としての在り方についての理解を深める講話
- 大学教授等による最先端研究や理論に関する講義や演習

f 大学等と連携した最先端研究実習体験や課題研究指導（選択）

g 卒業生（大学生等）による講話

h 保護者を交えた進学勉強会

i 進路便りや年間進路指導計画表の作成・配布

(ウ) 研究会等の開催

a 学力向上のための教科指導力向上研究会

主体的・対話的で深い学びの視点から生徒の主体性を生かす授業改善を進めるための研究

b 学力向上連絡協議会

主体的・対話的で深い学びの視点から生徒の主体性を生かす授業改善を進めるための協議

ウ 科学の甲子園福島県大会

生徒の理数に関する興味・関心を高めるとともに、意欲ある生徒の再生可能エネルギーの研究開発や放射線医学などを担う能力の育成を図ることを目的に開催。科学技術・理科・数学等における複数分野の知識・技能を競い合った。

- (3) 教職員現職教育計画に基づいて、各種研修会や講習会を開催し、教職員の職責にふさわしい資質・能力の向上に努めるとともに、社会の変化や時代の進展に対応した実践的指導力を習得させるため、各種の研修等を実施した。

- (4) 多様化した生徒の心の問題の解決のために、ピアサポートプロジェクトとしてカウンセリング等の各種研修会を開催し、教員の資質向上に努めた。さらに、教育相談専門研修及び関係機関との連携強化のために各種連絡協議会を開催し、教員の実践的指導力の向上を図った。

(5) 「震災と復興を未来へつむぐ高校生語り部事業」

ア 震災関連学習・語り部活動の人材育成

指定された各県立高校が、生徒に対して、伝承館等での研修や、各校で行う外部講師による震災関連授業等を実施し、語り部の人材育成につなげた。学習の成果は、各学校の創意工夫により、多様な方法で発信した。

なお、実践的な取組を行う「実践校」には、18校を指定した。

イ 県内の学校間での交流

語り部人材育成を強化する取組として、実践校の代表生徒による交流の場を設け、学習成果の情報共有を行った。

ウ 県外・海外の学校等との交流

実践校の生徒が県外・海外の高校生等と交流を行い、語り部活動を行った。

エ 震災学習のためのリーフレット（小冊子）の作成・配布

震災学習の成果をまとめたリーフレットを学校が作成

し、交流活動の中で配布し、活用した。
 オ 伝承館を利用した教員研修
 県立高校の教員及び公立小中学校の教員が、震災当時

の状況やその後の復興の歩み等を理解し、今後の本県の
 在り方や本県の教育について考えを深めた。

第2節 学校管理

1 生徒数と教職員数

(1) 県立高等学校の推移

年度 区分		27	28	29	30	元	2	3	4	5	6
全日制	本校	84	84	79	79	79	79	77	73	68	68
	分校	5	5	3	2	2	0	0	0	0	0
定時制	独立	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5
	併置	2	2	2	2	2	2	2	1	1	1
	計	7	7	7	7	7	7	7	6	6	6
	分校	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

(注)募集基準として学校数を算定(課程の変更、募集停止を実施した場合、2年以上の生徒が在籍しても学校数に含めない)。

(2) 中学校卒業者の進学状況

年度 区分		25	26	27	28	29	30	元	2	3	4	5	6
卒業生(A)		19,427	19,782	18,929	18,824	18,482	17,622	17,276	16,594	15,899	15,884	15,556	15,225
進学希望者数(B)		18,873	19,150	18,215	18,232	17,817	16,990	16,638	15,872	15,029	15,004	14,393	14,111
進学者数(C)		19,072	19,388	18,548	18,487	18,130	17,314	17,019	16,295	15,583	15,597	15,212	14,881
進学志願率(B/A)		97.1%	96.8%	96.2%	96.9%	96.4%	96.4%	96.3%	95.6%	94.5%	94.5%	92.5%	92.7%
進学率(C/A)		98.2%	98.0%	98.0%	98.2%	98.1%	98.3%	98.5%	98.2%	98.0%	98.2%	97.8%	97.7%
入学率(C/B)		101.1%	101.2%	101.8%	101.4%	101.8%	101.9%	102.3%	102.7%	103.7%	104.0%	105.7%	105.5%

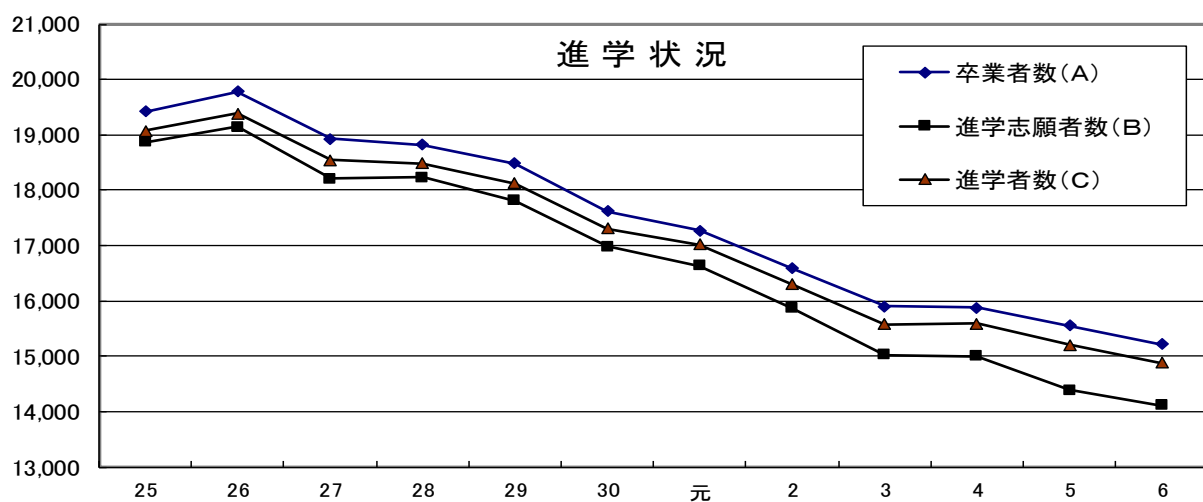
(注)進学とは中学校卒業者のうち県内外を問わず、高校の全日制、定時制、通信制、別科、高専及び特別支援学校高等部へ進学したことをいう(就職者を含む)。進学志願者数には高校の通信制課程志願者は含まれない。

中学校卒業者数は前年度より331名減少し、進学率は前年度より0.1ポイント下降、入学率は0.2ポイント下降した。

令和6年度の進学者の内訳は次のとおりである。

高等学校全日制	13,428名(90.2%)
高等学校定時制	250名(1.7%)
高等学校通信制	844名(5.7%)
高等学校別科	0名(0.0%)
高等専門学校	218名(1.5%)
特別支援学校高等部	141名(0.9%)

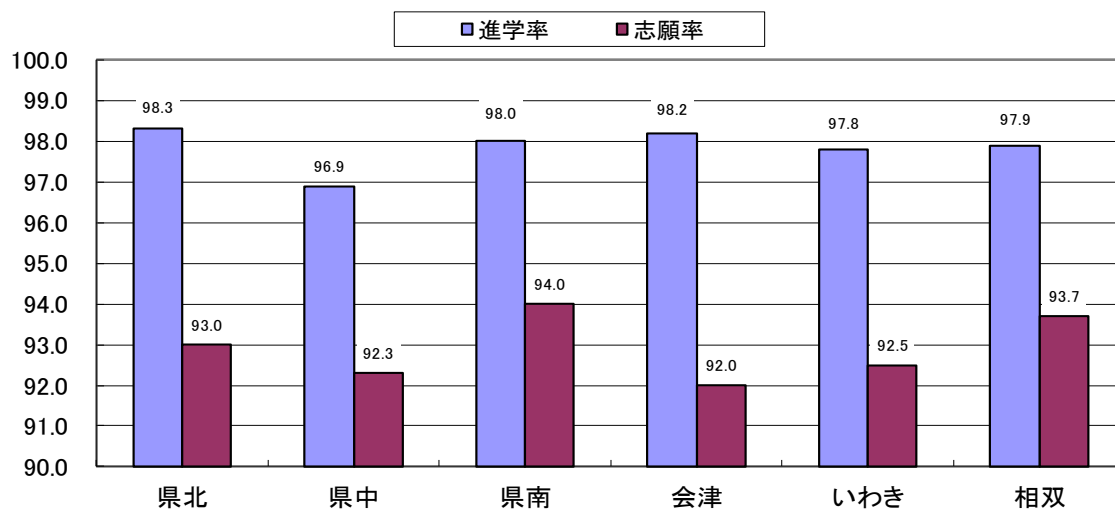
ア 中学校卒業者の進学状況の推移、進学率の推移



○高校進学率 (%)

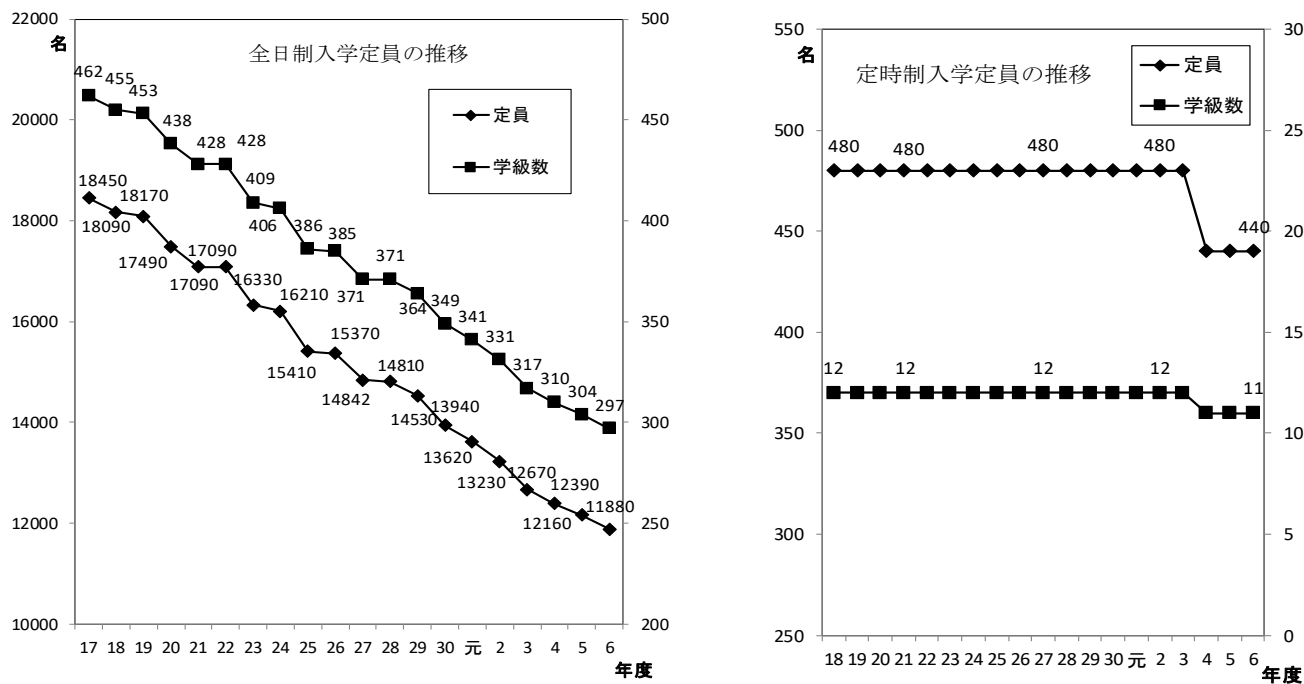
年度	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	元	2	3	4	5	6
全国	97.6	97.7	97.7	97.8	97.9	98.0	98.2	98.3	98.4	98.4	98.5	98.7	98.8	98.8	98.8	98.8	98.9	98.8	98.7	98.6
本県	97.4	97.8	97.7	97.9	98.0	98.2	98.0	98.1	98.2	98.0	98.0	98.2	98.1	98.3	98.5	98.2	98.0	98.2	97.8	97.7

イ 地域別高校志願率・進学率



(3) 県立高等学校入学定員の推移

ア 全日制入学定員並びに定時制入学定員の推移



イ 学級編成基準

学科の区分	全日制	定時制	学科の区分	全日制	定時制
普通科	35, 40	40	国際文化に関する学科	40	－
農業に関する学科	40	－	英語に関する学科	40	－
工業に関する学科	40	40	体育に関する学科	40	－
商業に関する学科	40	－	美術に関する学科	40	－
家庭に関する学科	40	－	国際科学に関する学科	40	－
水産に関する学科	40	－	総合学科	40	－
理数に関する学科	40	－	国際・スポーツに関する学科	40	－
文理に関する学科	40	－			

(4) 県立高等学校全日制課程入学状況の推移

年度	中学校卒業生数	入学定員		志願者数		志願倍率	入学者数	
	A	B 定員	B / A (%)	C 志願者数	C / A (%)	C / B (%)	D 入学者数	D / C (%)
27	18,929	14,842	78.4	15,716	83.0	106	13,961	88.8
28	18,824	14,810	78.7	15,598	82.9	105	13,945	89.4
29	18,482	14,530	78.6	15,213	82.3	105	13,478	88.6
30	17,622	13,940	79.1	14,439	81.9	104	12,839	88.9
元	17,276	13,620	78.8	13,855	80.2	102	12,426	89.7
2	16,594	13,230	79.7	12,986	78.3	98.2	11,771	90.6
3	15,899	12,670	79.7	12,248	77.0	96.7	11,008	89.9
4	15,884	12,390	78.0	12,138	76.4	98.0	10,762	88.7
5	15,556	12,160	78.2	11,842	76.1	97.4	10,671	90.1
6	15,225	11,880	78.0	11,619	76.3	97.8	10,590	91.1

(5) 県立高等学校生徒数（令和6.5.1現在）

課程 学科の区分		全日制	定時制			専攻科	合計	通信制
			学年制	単位制	計			
普通科	男	7,414	47	243	290		7,704	502
	女	7,979	45	317	362		8,341	546
	計	15,393	92	560	652		16,045	1,048
農業に関する学科	男	1,150					1,150	
	女	1,177					1,177	
	計	2,327					2,327	
工業に関する学科	男	4,115	22		22		4,137	
	女	416	4		4		420	
	計	4,531	26		26		4,557	
商業に関する学科	男	1,238					1,238	
	女	2,015					2,015	
	計	3,253					3,253	
家庭に関する学科	男	20					20	
	女	65					65	
	計	85					85	
水産に関する学科	男	260				33	293	
	女	66				4	70	
	計	326				37	363	
理数に関する学科	男	147					147	
	女	167					167	
	計	314					314	
文理に関する学科	男	331					331	
	女	529					529	
	計	860					860	
国際文化に関する学科	男	25					25	
	女	93					93	
	計	118					118	
国際・スポーツに関する学科	男	0					0	
	女	0					0	
	計	0					0	
国際科学に関する学科	男	76					76	
	女	391					391	
	計	467					467	
英語に関する学科	男	37					37	
	女	76					76	
	計	113					113	
体育に関する学科	男	100					100	
	女	10					10	
	計	110					110	
美術に関する学科	男	15					15	
	女	88					88	
	計	103					103	
総合学科	男	1,356					1,356	
	女	1,898					1,898	
	計	3,254					3,254	
合計	男	16,284	69	243	312	33	16,629	502
	女	14,970	49	317	366	4	15,340	546
	計	31,254	118	560	678	37	31,969	1,048

(6) 県立高等学校通信制課程入学者、卒業者の推移

区分	年度		25	26	27	28	29	30	元	2	3	4	5	6
	学校													
入学者	郡山萌世高校		152	133	124	99	87	71	86	84	71	106	107	113
	計		152	133	124	99	87	71	86	84	71	106	107	113

区分	年度		24	25	26	27	28	29	30	元	2	3	4	5
	学校													
卒業者	郡山萌世高校		231	192	155	158	122	121	120	110	112	109	133	106
	計		231	192	155	158	122	121	120	110	112	109	133	106

(7) 県立高等学校教職員定数の推移

区分	種別	高 等 学 校																			
	課程	全日制・定時制										通信制									
	職種／年度	27	28	29	30	元	2	3	4	5	6	27	28	29	30	元	2	3	4	5	6
教員	校長	86	86	81	81	81	81	79	75	70	70										
	教諭等	3223	3218	3167	3116	3047	2987	2928	2893	2861	2800	36	36	34	33	28	25	25	25	25	25
	養護教員	106	105	102	100	98	96	91	86	81	80										
	補充教員	153	145	137	131	127	124	120	124	123	125										
	充指導主事	23	23	23	23	22	22	22	23	23	23										
	寄宿舎指導員	5	6	7	8	10	10	10	10	10	10										
	実習助手	323	322	320	314	314	308	301	292	283	279										
	計	3919	3905	3837	3773	3699	3628	3551	3503	3451	3387	36	36	34	33	28	25	25	25	25	25
事務職員		245	247	240	232	228	223	217	213	207	204	6	6	6	6	6	6	4	4	4	4
その他の職員	技能員																				
	学校司書	53	53	53	52	52	52	51	52	53	53										
	用務員	45	41	40	39	42	32	29	23	20	18										
	ボイラー技師	7	6	6	5	6	3	1	2	2	2										
	栄養士	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4										
	調理給食員	3	3	3	3	3	1	1	1	1	1										
	計	112	107	106	103	107	92	86	82	80	78										
練習船	技能職員	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9										
	その他の職員	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13										
	計	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22										
合 計		4298	4281	4205	4130	4056	3965	3876	3820	3760	3691	42	42	40	39	34	29	29	29	29	29

2 教職員人事・任用

(1) 人事異動の概要

令和6年度の高等学校教職員定数（補充教員は含まない）は、前年度比71人減の3,595人となった。このうち、教諭等は、前年度比61人減の2,825人である。

また、特別支援学校については、前年度比9人減の1,715人となった。このうち教諭等は前年度比10人減の1,463人となった。

ア 新採用(教諭)について

令和6年度は49名(国語5名・地歴公民6名・数学4名・理科3名・保健体育3名・音楽1名・美術1名・英語4名・家庭2名・情報3名・農業5名・工業5名・商業4名・水産1名・福祉1名・特別選考Ⅲスポーツ1名)の新採用教員を県立高等学校に配置した。

令和6年度に実施した令和7年度福島県公立学校教員採用候補者選考試験は、採用予定者数50名程度に対して、高等学校志願者は前年比14人減の418名であった。

一次及び二次選考試験の結果、名簿登載者数は64名(前年度比15名増)となり、新採用教員として配置されることになる。

イ 校長への昇任

県立学校の校長への昇任は、その職責の重要性にかんがみ、資格・人物・指導力等を十分考慮のうえ、教頭から6名、教育庁関係から現場復帰による10名の登用をみた。これらの管理職は、できる限り自分の専門性をいかせるよう適材を適所に配置し、適正な学校管理運営をするよう努めた。

ウ 異動について

本年度も昨年度同様の方針にのっとり、同一校永年勤務者、採用後引き続き同一校に3年以上勤務する者等を含めて339名の教諭等の異動が実現した。

経験豊かな教員の転出が促進されたこととともに、定時制・通信制・及び特別支援学校と全日制高校との交流が進んだことは、教育組織の強化充実に資するところであり、全県的に教育水準及び教育効果の向上に役立つものと期待される。

(2) 令和6年度県立学校教員異動基準

I 一般基準

- (ア) 過員解消のための異動は、全県的視野から優先的に取り扱う。
- (イ) 教育課程の適正な運営を期するため、教員組織の均衡化を図り主免許教科を担当させるように努める。
- (ウ) 優秀な人材の定時制(夜間)・通信制・分校及びへき地校への転入を図るとともに、その者が相当年数(3年以上)勤務した場合の転出については、特に考慮する。
- (エ) 同一校には、原則として、最低3年は勤務するものとする。
- (オ) 2親等以内の者(姻族を含む。)は、原則として、同一校勤務を避ける。
- (カ) 教員人事公募選考制度については、別に定める。

II 異動基準

ア 勤続年数による基準

次に該当する者は、異動の対象とする。

- (ア) 採用後引き続き同一校に3年以上勤務した者(以下「初任者」という。)

- (イ) 異動2校目において3年以上勤務した者(以下「若年者」という。)

ただし、(ア)、(イ)いずれの場合も、原則として3年以上5年以内で異動させるものとする。

(「若年者」については平成21年度以降の採用者から適用する。)

- (ウ) 同一校に8年以上勤務した者

(以下「永年者」という。)

ただし、中通り地域の4校(湖南・塙工業・修明・修明鮫川)、会津地域の4校(川口・田島・南会津・只見)及び浜通り地域の2校(浪江津島・相馬農業飯舘)に3年以上勤務した場合は、永年とみなすことができる。

イ 地域、地区及び学校群による基準

教員の適材適所への配置及び教員組織の均衡化を図るため、県内を中通り、会津、浜通りの3地域に分け、各地域に所在する学校を学校規模及び交通の利便性等を考慮して、別表①に定めるⅠ・Ⅱ群に分類し、以下により異動を促進する。

- (ア) 原則として、採用後20年以内に3地域の学校に勤務するものとする。

- (イ) 農業、工業、商業、看護、福祉等を除く教科の教員については、Ⅱ群の学校に勤務している者が同一地区内で異動するときは、原則としてⅠ群の学校に勤務するものとする。

ただし、Ⅱ群普通系からⅡ群専門系への異動、Ⅱ群専門系勤務者のうち直近の勤務がⅠ群校の者のⅡ群普通系への異動は可とする。

なお、相双地区においてはⅡ群普通系内の異動も可とする。

- (ウ) 農業、工業、商業、看護、福祉等の教科の教員については、全県的視野から地域間で相互に異動させるものとする。

ウ 平成20年度以前の採用者について

平成30年度までは次の基準(以下「旧基準」という。)

を準用し、下記の(イ)aを満たす者は、上記イ(ア)の規定を満たすものとする。

- (ア) 勤続年数による基準

次に該当する者は、異動の対象とする。

- a 初任者 b 永年者

- (イ) 地区及び学校群による基準

教員組織の均衡化を図るため、県内を県北・県南・会津・いわき・相双の5地区に分け、地区ごとに所在する学校の地理的特殊性等を考慮して、別表②に定めるA・B・C3群に分類し、以下により異動を促進する。

- a 原則として次の条件を満たすよう勤務するものとする。
- (a) 採用後 15 年以内に 2 地区以上の学校に勤務する。
- (b) A・B 2 群の学校に勤務する。ただし、A 群については、採用後 15 年以内とする。
- b 県南地区の 4 校（湖南・埴工業・修明・修明鮫川）、会津地区の 4 校（川口・田島・南会津・只見）及び相双地区の 3 校（浪江津島・富岡川内・相馬農業飯館）は、それぞれ 1 地区とみなす。
- c 本宮は平成 16 年度より県北地区とし、平成 16 年度以降の転入・在籍者から適用する。
- d 群の取扱いの変更は、別表③の適用年度以降に当該校へ転入・在籍した者について適用する。
- e 同一学校群内の異動については、次の諸点に留意する。
- (a) A 群については、原則として、へき地校間、分校間の異動は行わない。
- (b) B 群については、原則として、同一市内間の異動は行わない。ただし、いわき市及び南相馬市は除く。
- (c) C 群については同一市内間の異動は行わない。
- f 職業に関する学科の教員で、永年者については、全県的視野から地区間で相互に異動することができるものとする。

また、異動後同一校に 3 年以上勤務した場合は、直近の勤務地区内へ異動することができる。

エ 寄宿舎指導員

原則として 2 に準ずるが、採用後 20 年以内に 2 地域の学校に勤務するものとする。

オ 交流

(ア) 学校種別間の交流

高等学校、特別支援学校及び中学校における教育を充実させるため、県立特別支援学校、市町村公立中学校との交流を促進する。

- a 県立特別支援学校との交流は教諭、養護教諭、実習助手、寄宿舎指導員を対象とする。

その期間は、教諭及び実習助手については原則として 3 年とし、養護教諭及び寄宿舎指導員については原則として 3 年から 8 年とする。

- b 市町村公立中学校との交流は教諭を対象とし、その期間は原則として 2 年とする。

(イ) 他県との交流

他県との交流については、別に定める。

別表① 地域・地区・群学校分類表

群		I	II	
地域・地区				
中通り	県北	福島明成 福島工業（定） 福島北 福島南 川俣 伊達 安達 二本松実業 本宮 ふくしま新世	普通系	福島 橘 福島西 福島東
			専門系	福島商業 福島工業
	県中	湖南 須賀川創英館 須賀川桐陽 清陵情報 岩瀬農業 石川 田村 船引 小野 郡山萌世	普通系	安積 安積黎明 郡山東 郡山 あさか開成
			専門系	郡山商業 郡山北工業
	県南	光南 修明 白河二	普通系	白河 白河旭
			専門系	白河実業
会津		喜多方 喜多方桐桜 猪苗代 西会津 会津西陵 川口 会津農林 南会津 只見 会津二	普通系	会津 葵 会津学鳳
			専門系	若松商業 会津工業
		会津学鳳中学校		
浜通り	いわき	いわき総合 いわき光洋 いわき湯本 小名浜海星 磐城農業 勿来 勿来工業 好間 四倉 いわき翠の杜	普通系	磐城 磐城桜が丘
			専門系	平工業 平商業
	相双	浪江 浪江（津島） 富岡 双葉翔陽 ふたば未来学園 相馬農業 小高産業技術	普通系	双葉 相馬 原町
			専門系	相馬総合
		ふたば未来学園 中学校		

は、平成 29 年 4 月 1 日から休校になった学校。

別表② 地区・群別学校分類表

群 地区	A	B	C	特別支援学校 (A群校扱い)
県 北	福島工業(定) 川俣 ふくしま新世	福島商業 福島明成 福島北 伊達 安達 二本松実業 本宮	福島 橘 福島工業 福島西 福島東 福島南	視覚支援 聴覚支援(福島) 大笹生支援 だて支援 須賀川支援(医大)
県 南	石川 船引 小野 郡山萌世 白河第二	須賀川創英館 須賀川桐陽 清陵情報 岩瀬農業 光南 白河実業 田村	安積 安積黎明 郡山東 郡山商業 郡山北工業 郡山 あさか開成 白河 白河旭	聴覚支援 郡山支援 あぶくま支援 須賀川支援 須賀川支援(郡山) たむら支援
	湖南 修明			西郷支援 石川支援 石川支援(たまかわ)
会 津	猪苗代 西会津 会津第二	喜多方 喜多方桐桜 会津西陵 会津農林	会津 葵 会津学鳳 若松商業 会津工業	聴覚支援(会津) 会津支援 会津支援(竹田) 猪苗代支援
	川口 南会津 只見			
	会津学鳳中学校			
いわき	小名浜海星 磐城農業 勿来 勿来工業 いわき翠の杜	いわき総合 いわき光洋 いわき湯本 好間 四倉	磐城 磐城桜が丘 平工業 平商業	聴覚支援(平) 平支援 いわき支援 いわき支援(くぼた)
相 双	双葉翔陽	双葉 浪江 富岡 相馬農業 小高産業技術	相馬 相馬総合 原町	富岡支援 ふたば支援
	浪江(津島)			

~~~~~は、平成 29 年 4 月 1 日から休校になった学校。

別表③

| 高校名   | 群 | 適用年度  | 高校名   | 群 | 適用年度  | 高校名   | 群 | 適用年度  |
|-------|---|-------|-------|---|-------|-------|---|-------|
| 小野    | A | 昭和 52 | 白河実業  | B | 昭和 61 | 棚倉    | A | 平成 10 |
| 福島明成  | B | 昭和 56 | 川俣    | A | 平成 2  | 東白川農商 | A | 〃     |
| 福島北   | B | 〃     | 福島商業  | B | 〃     | あさか開成 | C | 平成 11 |
| いわき海星 | A | 〃     | 梁川    | A | 平成 8  | 光南    | B | 〃     |
| 磐城農業  | A | 〃     | 船引    | A | 〃     | 石川    | A | 〃     |
| 勿来工業  | A | 〃     | いわき光洋 | C | 〃     | いわき光洋 | B | 平成 16 |
| 双葉翔陽  | A | 〃     | 勿来    | A | 〃     |       |   |       |
| 猪苗代   | A | 昭和 58 | 相馬農業  | B | 〃     |       |   |       |

(3) 教頭複数制実施校(令和6年度実績)

|         |       |        |       |
|---------|-------|--------|-------|
| 福島      | 橘     | 福島商業   | 福島明成  |
| 福島工業    | 福島西   | 福島東    | 伊達    |
| 二本松実業   | 安積    | 安積黎明   | 郡山東   |
| 郡山北工    | 郡山    | 須賀川創英館 | 清陵情報  |
| 岩瀬農業    | 光南    | 白河     | 白河実業  |
| 修明      | 田村    | 会津     | 会津学鳳  |
| 喜多方     | 会津西陵  | 磐城     | 磐城桜が丘 |
| 平工業     | いわき総合 | いわき湯本  | 小名浜海星 |
| ふたば未来学園 | 相馬総合  | 小高産業技術 | 郡山萌世  |
| ふくしま新世  | 視覚支援  | 聴覚支援   | 大笹生支援 |
| だて支援    | 郡山支援  | あぶくま支援 | 須賀川支援 |
| 西郷支援    | 石川支援  | たむら支援  | 会津支援  |
| 平支援     | いわき支援 | 相馬支援   |       |

3 学校の設置及び統廃合

－ 公立高等学校の設置・廃止等(令和7年度)－

(1) 学校の新設・廃止等

ア 統合に伴う学校廃止 全日制2校

| 課程  | 学校名   | 内 容     |
|-----|-------|---------|
| 全日制 | いわき総合 | 総合学科5学級 |
|     | 好間    | 普通科2学級  |

イ 統合に伴う学校新設 全日制1校

| 課程  | 学校名   | 内 容     |
|-----|-------|---------|
| 全日制 | いわき総合 | 総合学科6学級 |

ウ 休校 全日制5校

双葉高等学校、浪江高等学校、浪江高等学校津島校、  
富岡高等学校、双葉翔陽高等学校

(2) 学級増

なし

(3) 学級減

全日制6校6学級

| 課程  | 学校名    | 内 容     |
|-----|--------|---------|
| 全日制 | 伊達     | 普通科1学級  |
|     | 須賀川創英館 | 普通科1学級  |
|     | 白河     | 普通科1学級  |
|     | 会津西陵   | 普通科1学級  |
|     | 南会津    | 総合学科1学級 |
|     | 相馬総合   | 総合学科1学級 |

(4) 募集停止

なし

(5) 学科転換・学科改編・学科新設

|    |          |     |
|----|----------|-----|
| 郡山 | 普通科      | 5学級 |
|    | 英語科      | 1学級 |
|    | 計        | 6学級 |
| →  | 普通科(単位制) | 4学級 |
|    | 探究科(単位制) | 2学級 |
|    | 計        | 6学級 |

(6) 学科名変更

なし

(7) 校名変更

なし

(8) 35人学級編制

|       |           |     |
|-------|-----------|-----|
| 喜多方桐桜 | 機械科       | 1学級 |
|       | 電気・電子科    | 1学級 |
|       | 建設科       | 1学級 |
|       | 経営マネジメント科 | 1学級 |
|       | 計         | 4学級 |

(9) 連携型中高一貫教育校

| 課程  | 学校名                              | 連携中学校                                                                                                |
|-----|----------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 全日制 | 修明<br>南会津<br>ふたば未来学園<br><br>相馬総合 | 棚倉、塙、矢祭、鮫川<br>田島、荒海、舘岩、南会津、下郷<br>なみえ創成、葛尾、双葉<br>学び舎ゆめの森、富岡<br>川内小中学園、檜葉、広野<br>中村第一、中村第二、<br>向陽、磯部、尚英 |

(10) 併設型中高一貫教育校

安積高等学校(県立安積中学校)  
会津学鳳高等学校(会津学鳳中学校)  
ふたば未来学園高等学校(ふたば未来学園中学校)

(11) 通信制

変更なし

(12) 専攻科

変更なし

## 第3節 学校教育

### 1 概要

#### (1) 指導行政の基本方針

生徒の能力・適性、進路・関心等を十分考慮し、地域や学校の実態に応じた教育指導の充実を図りながら、人間性豊かな生徒の育成を目指して、学校教育活動が活発に展開されるよう次の重点目標を設定し、その達成に努めた。

ア 生徒の実態等を踏まえ、各学校が主体性をもって、多様な教育課程を編成し、特色ある学校づくりができるよう指導・援助する。

イ 指導内容の精選と構造化に努め、言語活動の充実と生徒のよい点を積極的に評価するなどの評価の改善を進めることにより、生徒一人一人の個性を生かす指導方法の工夫・改善が図られるよう指導・援助する。

ウ 生徒指導の組織・体制を点検するとともに、教職員の共通理解を基盤として、中学校や家庭との連携を深めながら、生徒理解に基づいた指導が展開されるよう、指導・援助する。

エ 生徒の学校生活への適応を促し、中途退学者の減少及び問題行動・生徒事故の未然防止が図られるよう指導・援助する。

オ 教職員の資質と指導力の向上に努める。

カ 勤労観・職業観の育成にかかわる体験的な学習及び産業教育、情報教育の推進を図る。

#### (2) 指導組織

高校教育課長を中心に、主幹、主任指導主事及び指導主事が一体となって、それぞれの分掌に従い、企画・運営・指導助言に当たった。

また、学校教育指導委員については、県立高校教諭13名を指名し、各教科等の指導活動の充実・強化を図った。

#### (3) 学校教育指導の重点

前記の基本方針に基づき、指導の重点を次のように設定し、指導の充実を図った。

ア 教育課程の適切な運営と指導法の改善を図る。

(ア) 教育課程の適正な実施について、校長会、教頭会において周知徹底を図った。

(イ) 福島県高等学校教育課程講習会において、高等学校学習指導要領の趣旨の徹底を図るため、参加者に対して講義及び協議を実施し、教育課程実施に伴う諸問題について理解を深めた。

イ 学力向上を図る。

「ふくしま高校生学びの变革支援事業」として、生徒の進路希望実現を目指した各学校の学力向上やキャリア教育に関する取組の支援、授業改善や進学指導力向上のための研究会などを実施した。また、将来社会においてリーダーシップを発揮できる人材の育成を目指し、難関大学進学への意識、意欲の高い生徒を対象とした学習セミナーを実施した。さらに、対象校の進路指導担当者を出席者とする情報交換会を実施した。

ウ 生徒指導の充実を図る。

(ア) 各種研修会、学校訪問等の指導を通して、校内における指導体制の確立を図るとともに、教職員の共通理解を図り、同一歩調による生徒指導の充実に努めた。

(イ) 生徒指導担当者研修会を開催し、生徒の多様化に即した生徒指導の在り方、開かれた生徒指導の在り方について研究協議を行った。

(ウ) 学校における教育相談体制の確立と教育相談活動の改善・充実を図った。

(エ) スクールカウンセラー活用事業として、生徒の臨床心理に関して高度に専門的な知識・経験を有するスクールカウンセラーを配置し、いじめや不登校等生徒の問題行動の解決に当たった。

エ 進路指導の充実を図る。

各種の研修会や講座を通して、下記事項の徹底に努めた。

(ア) キャリア教育の観点より低学年からの計画的・組織的な進路指導を通し進路意識の高揚に努めること。

(イ) ホームルーム活動における進路指導の充実に努めること。

(ウ) 面談や諸調査・諸検査を通して、生徒の能力・適性・進路の希望等を的確に把握すること。

(エ) 生徒の自己理解の促進に努めること。

(オ) 進路指導室の整備及び進路に関する情報や資料の収集に努めるとともに、その効果的な活用を図ること。

(カ) 組織的・計画的な進路相談の充実に努めること。

(キ) きめ細かな就職指導の充実・徹底に努めること。

オ 産業教育の充実を図る。

産業教育の改善・充実を図るため、施設・設備の充実及び情報教育の推進に努めた。

(ア) 体験入学の内容の質的改善・充実に努めた。

(イ) 情報教育の充実のため、教員の研修に努めた。

(ウ) 産業教育関係機関との連携により、産業教育の振興に努めた。

#### (4) 教職員の資質の向上と学校管理運営の充実

ア 現職教育の充実

(ア) 校内における研修体制の改善・充実を図った。

(イ) 研修会、講習会等への積極的な参加を促進し、指導力の向上を図った。

(ウ) 自己研修の充実により、教職員の能力が効果的に発揮されるように努めた。

イ 学校管理運営の適正化

(ア) 学校経営・運営ビジョンを定め、その達成度を客観的に評価し、その結果を公表するように努めた。

(イ) 管理者が学校管理運営について積極的に指導助言を行うよう努めた。

(ウ) 諸表簿の整理と保管、設備・備品の管理と活用については、適正に行われるように努めた。

(エ) 学校事務の責任分担を明確にし、正確、敏速、円滑に処理するよう努めた。

(オ) 各種調査報告について、厳正、的確に作成し、期限の厳守に努めた。

#### ウ 勤務体制の確立

教職員の勤務内容を明確にし、その実績について客観的に評価できるようにした。

#### エ 使命感の高揚

(ア) 教育公務員としての使命感に徹し、規律と責任ある体制を整え、教育能率の向上に努めた。

(イ) 教育公務員としての立場を自覚するとともに、服務倫理委員会を活用して事故防止に努め、社会的信用を失墜させることのないようにした。

(ウ) 絶えず自己研修に努め、豊かな知性を養い、指導力を高め、職責を十分果たせるようにした。

### (5) 教育環境の整備充実

#### ア 学習環境の整備充実

(ア) 環境整備については、計画的に充実を図った。

(イ) 学習環境を整備し、学習意欲の高揚を図った。

(ウ) 施設・設備の管理と運営の適正化を図った。

#### イ 学校事故防止の徹底

(ア) 安全教育の計画的実施と、事故防止を配慮した環境の整備改善に努めた。

(イ) 学校事故、教職員事故の防止については、適切な対策を講じ、事故の絶無を期した。

(ウ) 指導・管理の充実を図るため、関係機関、団体等との連携を密にして協力体制の確立に努めた。

### (6) 県立高等学校入学者選抜

#### ア 基本方針

令和7年度福島県立高等学校入学者選抜における基本方針

##### (ア) 特色選抜

特色選抜は、各高等学校が自校の特色に応じてどのような受験生に志願してほしいかを選抜方法と併せて明示し、受験生は、それに応じて自分の志願したい高等学校を主体的に選択し出願できる選抜とする。選抜に当たっては、受験生の個性や学ぶ意欲を重視するとともに、自校の特色に応じた選抜となるよう選抜資料を活用し、各高等学校の教育を受けるに足る能力・適性等を総合的に判定して選抜するものとする。

なお、特色選抜の性格をより明確にするため、各高等学校の「志願してほしい生徒像」については、より具体的な記載を可能とする。

a 選抜に当たっては、志願理由書の記載内容、調査書の審査結果、学力検査の成績及び特色選抜に係る面接（以下「特色面接」という。）の結果を資料とする。なお、各高等学校の判断により、学校の特色や学科の特性に応じて、小論文（又は作文）、実技等（以下「特色検査」という。）の結果を選抜資料に加えることができるものとする。

b 特色選抜においては、各高等学校が自校の教育目標にふさわしい入学者を選抜するため、受験生を多面的・多角的に評価するための資料の一つとして特色面接の

結果及び特色検査を実施した場合にはその結果を積極的に活用するものとする。

c 特色選抜の定員枠については、県教育委員会が定める範囲の中で、各高等学校が、その特色や学科の特性に応じて設定するものとする。

d 可否の判定に当たっては、調査書の審査結果、学力検査の成績、特色面接の結果及び特色検査を実施した場合にはその結果の比重を、県教育委員会が定めた範囲内で各高等学校がその特色や学科の特性に応じて定めるものとする。

##### (イ) 一般選抜

一般選抜は、中学校における学習活動の成果を総合的にみる選抜とする。選抜に当たっては、学力検査の成績、調査書の審査結果を資料とし、さらに一般選抜に係る面接（以下「一般面接」という。）を実施する高等学校においては一般面接の結果を併せて資料とし、各学校の特色、学科の特性等に配慮しつつ、その教育を受けるに足る能力・適性等を総合的に判定して選抜するものとする。

a 特定の教科の学力検査の配点の比重を変える傾斜配点については、各学校の特色・学科の特性を考慮し、各高等学校の判断により実施することができるものとする。

また、志願者の自己申告による傾斜配点についても、各高等学校の判断により実施できるものとする。

b 一般選抜の可否判定に当たっては、学力検査と調査書の成績の比重を原則として同等とする。

ただし、各高等学校が自校の特色化を図るために必要と判断する場合には、学力検査と調査書の成績の比重を変えることができるものとする。

c 一般面接については、各高等学校の判断により実施できるものとする。

##### (ウ) 後期選抜

後期選抜は、前期選抜及び連携型中高一貫教育に係る入学者選抜（以下「連携型選抜」という。）により定員（併設型中高一貫教育校における高等学校においては、当該高等学校に係る併設型中高一貫教育校における中学校から当該高等学校への入学を志願する者の数を除いた数とする。）を充足しない高等学校において実施するものとし、前期選抜及び連携型選抜の受験の有無にかかわらず出願できる選抜とする。

選抜に当たっては、調査書の審査結果、面接の結果及び小論文（又は作文）の結果を資料として、各高等学校の教育を受けるに足る能力・適性等を総合的に判定して選抜するものとする。

なお、前期選抜又は連携型選抜に合格した者は出願できないものとする。

a 選抜に当たっては、調査書の成績とともに、面接の結果及び小論文（又は作文）の結果を十分に精査する。

b 前期選抜に係る学力検査の成績は、後期選抜の資料

とはしないものとする。

- c 後期選抜における面接は、受験生の学ぶ意欲をみる内容とともに、中学校における学習活動の成果を問う内容を含むことができるものとする。

なお、併設型中高一貫教育校における中学校から当該中学校に係る併設型中高一貫教育校における高等学校への入学を志願する者については、各選抜に出願することはできないものとする。

イ アドミッション・ポリシーの策定に伴う対応

- (ア) 令和5年度に各校においてスクール・ポリシーを策定したことを受け、各校が自校のアドミッション・ポリシーに基づいて生徒を募集し、各選抜を実施するものとする。

- (イ) 各校の選抜方法の調査票及び募集要項にアドミッション・ポリシーを掲載することとする。

a 連携型選抜

連携型中高一貫教育を実施する高等学校（以下「連携型高等学校」という。）において、連携型中高一貫教育を実施する中学校（以下「連携型中学校」という。）から目的意識や意欲のある生徒の入学を促進し、6年間を通して生徒一人一人の個性をより重視した教育の実現を図るため、連携型選抜を実施する。

- (a) 実施高等学校及び対象中学校・義務教育学校は、以下のとおりである。

- (1) 県立白河実業高等学校及び埴町立埴中学校
- (2) 県立南会津高等学校及び南会津町立田島中学校・荒海中学校
- (3) 県立相馬総合高等学校及び相馬市立中村第一中学校・中村第二中学校・向陽中学校・磯部中学校、新地町立尚英中学校
- (4) 県立ふたば未来学園高等学校及び浪江町立なみえ創成中学校、葛尾村立葛尾中学校、双葉町立双葉中学校、大熊町立学び舎ゆめの森、富岡町立富岡中学校、川内村立川内小中学園、檜葉町立檜葉中学校、広野町立広野中学校

- (b) 募集定員枠については、別に公告する募集定員の30%を下限とし、各連携型高等学校が学校・学科の特色や地域の特性に応じて設定する。

ただし、定員枠については、当該高等学校長はあらかじめ県教育委員会と協議するものとする。

また、特色選抜の募集定員枠は、これとは別に設定するものとし、併設型中高一貫教育校における高等学校においては、これらの割合について、別に公告する募集定員から当該高等学校に係る併設型中高一貫教育校における中学校の第3学年に在学する者（11月1日現在）の数を除いた数に対する割合とする。

なお、可否の判定に当たっては、志願者の動向や各学校・学科の実態に応じて、弾力的に対応することができる。

- (c) 連携型高等学校の連携型選抜に出願することがで

きる者は、当該高等学校と連携している中学校を卒業する見込みの者とする。

なお、連携型中学校を卒業する見込みの者は、当該中学校と連携している高等学校の特色選抜へ出願することはできない。

- (d) 受験生の個性や学ぶ意欲をみるとともに、連携している内容に応じた選抜となるよう配慮し、各連携型高等学校の教育を受けるに足る能力・適性等を総合的に判定して選抜するものとする。

- (e) 志願者全員に学力検査を課す。学力検査を実施する教科は、国語、社会、数学、理科、外国語（英語）の5教科とし、学力検査の問題作成や配点については、前期選抜と同様とする。

- (f) 選抜に当たっては、中学校長から提出された調査書の審査結果、学力検査の成績及び連携型選抜に係る面接（以下「連携型面接」という。）の結果を資料とする。

なお、各連携型高等学校長の判断により、各連携型高等学校が連携している教育課程に基づいた内容に応じた選抜方法に加え、学校の特色や学科の特性等に関する内容に応じた選抜方法（以下これらを「連携型検査」という。）を選択して実施した場合には、それらの結果を併せて資料として選抜を行うことができるものとする。

- (g) 可否の判定に当たっては、調査書の審査結果、学力検査の成績、連携型面接の結果及び連携型検査を実施した場合にはその結果の比重を、県教育委員会が定めた範囲内で各高等学校がその特色や学科の特性に応じて定めるものとする。

- (h) 連携型選抜の志願者は、出願した高等学校において一般選抜にも出願できるものとするが、その場合、各連携型高等学校は、連携型選抜、一般選抜の順に可否判定を行う。

- (i) 連携型選抜に出願する者は、特色選抜との併願はできない。

ウ 入学者選抜関係日程

- (ア) 入学者選抜に係る会議等の日程

6月11日 第1回県立中学校・高等学校入学者選抜事務調整会議

7月11日 第2回県立中学校・高等学校入学者選抜事務調整会議

8月27日 第3回県立中学校・高等学校入学者選抜事務調整会議

8月27日 県立中学校・高等学校入学者選抜方法の改善等に関する調査研究報告書提出

10月9日～10月10日

オンライン方式で入学者選抜実施要綱説明会実施

10月11日 令和7年度入学者募集定員決定

- (イ) 前期選抜関係日程

2月4日～2月7日 出願書類受付

2月10日～2月13日 出願先変更  
2月14日～2月17日 調査書提出  
3月5日 学力検査  
3月5日～3月7日 面接等  
3月11日～3月12日 追検査等  
3月14日 合格者発表

(ウ) 後期選抜関係日程

3月17日～3月18日 出願書類受付  
3月19日 出願先変更  
3月24日 面接等  
3月25日 合格者発表

(エ) 連携型選抜関係日程

2月4日～2月7日 出願書類受付  
2月10日～2月13日 出願先変更  
2月14日～2月17日 調査書提出  
3月5日 学力検査  
3月5日～3月7日 面接等  
3月11日～3月12日 追検査等  
3月14日 合格者発表

(オ) 通信制の課程選抜日程

2月4日～3月28日 出願書類受付  
4月4日 合格者発表(個人宛通知)

エ ふたば未来学園高等学校の入学者選抜

平成27年度入学者選抜において、双葉高等学校(普通科)、浪江高等学校(普通科)、浪江高等学校津島校(普通科)、富岡高等学校(国際・スポーツ科)、双葉翔陽高等学校(総合学科)を募集停止とし、平成27年4月にふたば未来学園高等学校を開校した。令和7年度連携型選抜においては、次の(ア)～(ウ)に該当する者を出願資格を有する者とした。

(ア) 出願時にJFAアカデミー福島又は双葉地区未来創造型リーダー育成構想(新双葉地区教育構想)ビクトリープログラムに参加している者

(イ) 次の双葉郡の中学校に在籍している者

双葉郡浪江町立なみえ創成中学校  
双葉郡葛尾村立葛尾中学校  
双葉郡双葉町立双葉中学校  
双葉郡大熊町立学び舎ゆめの森  
双葉郡富岡町立富岡中学校  
双葉郡川内村立川内小中学園  
双葉郡楡葉町立楡葉中学校  
双葉郡広野町立広野中学校

(ウ) ふたば未来学園高等学校との連携型中高一貫教育を実施している中学校に在籍している者以外で、東日本大震災が発生した時に、双葉郡内に居住していた者又は双葉郡内に保護者が居住していた者で、中学校若しくはこれに準ずる学校若しくは義務教育学校若しくは中等教育学校の前期課程を令和7年3月に卒業見込又は修了見込の者

オ 志願者数・合格者数

(ア) 各選抜ごとの集計

※「普通科等」には、普通科、理数科、数理科学科、文理科、文理探究科、国際文化科、スポーツ科、デザイン科学科、国際科学科、探究科が含まれる。

a 特色選抜

《全日制》

| 学科   | 募集定員   | 特色選抜<br>定員 | 志願者数  | 志願<br>倍率 | 合格者数  |
|------|--------|------------|-------|----------|-------|
| 普通科等 | 6,200  | 1,009      | 926   | 0.92     | 753   |
| 農 業  | 1,000  | 194        | 84    | 0.43     | 59    |
| 工 業  | 1,785  | 495        | 323   | 0.65     | 298   |
| 商 業  | 1,195  | 459        | 390   | 0.85     | 331   |
| 水 産  | 120    | 48         | 9     | 0.19     | 9     |
| 家 庭  | 40     | 4          | 4     | 1.00     | 4     |
| 総 合  | 1,240  | 367        | 330   | 0.90     | 252   |
| 計    | 11,580 | 2,576      | 2,066 | 0.80     | 1,706 |

《定時制》

| 学科  | 募集定員 | 特色選抜<br>定員 | 志願者数 | 志願<br>倍率 | 合格者数 |
|-----|------|------------|------|----------|------|
| 普 通 | 400  | 48         | 10   | 0.21     | 4    |
| 工 業 | 40   | 8          | 0    | 0.00     | 0    |
| 計   | 440  | 56         | 10   | 0.18     | 4    |

b 連携型中高一貫教育に係る入学者選抜（連携型選抜）

| 学科  | 連携型選抜<br>定員 | 志願者数 | 志願<br>倍率 | 合格者数 |
|-----|-------------|------|----------|------|
| 工 業 | 36          | 1    | 0.03     | 1    |
| 総 合 | 110         | 83   | 0.75     | 72   |
| 計   | 146         | 84   | 0.58     | 73   |

c 前期選抜、連携型選抜

《全日制》

| 学科   | 募集定員   | 志願者数   | 志願<br>倍率 | 合格者数  |
|------|--------|--------|----------|-------|
| 普通科等 | 6,200  | 6,080  | 0.98     | 5,513 |
| 農 業  | 1,000  | 780    | 0.78     | 743   |
| 工 業  | 1,785  | 1,505  | 0.84     | 1,448 |
| 商 業  | 1,195  | 1,106  | 0.93     | 1,026 |
| 水 産  | 120    | 105    | 0.88     | 101   |
| 家 庭  | 40     | 31     | 0.78     | 30    |
| 総 合  | 1,240  | 1,060  | 0.96     | 979   |
| 計    | 11,580 | 10,667 | 0.93     | 9,840 |

※ 「総合」及び「計」の志願倍率は、会津学鳳中学校から会津学鳳高等学校への入学予定者 84 名と、ふたば未来学園中学校からふたば未来学園高等学校への入学予定者 53 名を、入学定員から減じて算出した値である。

《定時制》

| 学科  | 募集定員 | 志願者数 | 志願<br>倍率 | 合格者数 |
|-----|------|------|----------|------|
| 普 通 | 400  | 284  | 0.71     | 238  |
| 工 業 | 40   | 8    | 0.20     | 8    |
| 計   | 440  | 292  | 0.66     | 246  |

d 外国人生徒等に係る特別枠選抜

| 募集定員 | 志願者数 | 合格者数 |
|------|------|------|
| 若干名  | 13   | 9    |

e 後期選抜

《全日制》

| 学科   | 募集定員  | 志願者数 | 合格者数 |
|------|-------|------|------|
| 普通科等 | 687   | 86   | 79   |
| 農 業  | 257   | 34   | 27   |
| 工 業  | 337   | 22   | 22   |
| 商 業  | 169   | 19   | 19   |
| 水 産  | 19    | 2    | 2    |
| 家 庭  | 10    | 1    | 1    |
| 総 合  | 124   | 11   | 11   |
| 計    | 1,603 | 175  | 161  |

《定時制》

| 学科  | 募集定員 | 志願者数 | 合格者数 |
|-----|------|------|------|
| 普 通 | 162  | 11   | 7    |
| 工 業 | 32   | 1    | 1    |
| 計   | 194  | 12   | 8    |

(4) 後期選抜実施後の最終集計

※「普通科等」には、普通科、理数科、数理科学科、文理科、文理探究科、国際文化科、スポーツ科、デザイン科学科、国際科学科、探究科が含まれる。

《全日制》

| 学科   | 募集定員   | 特色選抜<br>合格者数 | 連携型選抜<br>合格者数 | 前期選抜<br>連携型選抜<br>合格者数 | 後 期 選 抜<br>合 格 者 数 | 合格者数   |
|------|--------|--------------|---------------|-----------------------|--------------------|--------|
| 普通科等 | 6,200  | 753          |               | 5,513                 | 79                 | 5,592  |
| 農 業  | 1,000  | 59           |               | 743                   | 27                 | 770    |
| 工 業  | 1,785  | 298          | 1             | 1,448                 | 22                 | 1,470  |
| 商 業  | 1,195  | 331          |               | 1,026                 | 19                 | 1,045  |
| 水 産  | 120    | 9            |               | 101                   | 2                  | 103    |
| 家 庭  | 40     | 4            |               | 30                    | 1                  | 31     |
| 総 合  | 1,240  | 252          | 72            | 979                   | 11                 | 990    |
| 計    | 11,580 | 1,706        | 73            | 9,840                 | 161                | 10,001 |

《定時制》

| 学科  | 募集定員 | 特色選抜<br>合格者数 | 連携型選抜<br>合格者数 | 前 期 選 抜<br>合 格 者 数 | 後 期 選 抜<br>合 格 者 数 | 合格者数 |
|-----|------|--------------|---------------|--------------------|--------------------|------|
| 普 通 | 400  | 4            |               | 238                | 7                  | 245  |
| 工 業 | 40   | 0            |               | 8                  | 1                  | 9    |
| 計   | 440  | 4            |               | 246                | 8                  | 254  |

## 2 現職教育

### (1) 各種研修並びに講習会

| 名 称                          | 期 日                                                                     | 期 間   | 会 場                   | 参加者                             |
|------------------------------|-------------------------------------------------------------------------|-------|-----------------------|---------------------------------|
| 県立学校新任校長・副校長研修会              | 5 月 7 日～8 日                                                             | 2 日   | 教育センター                |                                 |
| 県立学校新任教頭研修会                  | 5 月 9 日～10 日                                                            | 2 日   | 教育センター                |                                 |
| 中核教諭研修                       | 10 月 23 日～25 日                                                          | 3 日   | 教育センター                | 県立学校中核教諭 50 名                   |
| 初任者研修（基本研修）                  | 4 月 3 日、10 日                                                            | 2 日   | 教育センター, オンライン         | 高等学校初任者研修<br><br>対象教員 38 名      |
| 〃（一次研修）                      | 4月24日～25日、5月1日                                                          | 3 日   | 教育センター, オンライン         |                                 |
| 〃（二次研修）                      | 1月29日、2月5日～6日                                                           | 3 日   | 教育センター, オンライン         |                                 |
| 〃 地区別（教科別）                   | 1 班 8 月 28 日～30 日                                                       | 3 日   |                       |                                 |
|                              | 2 班 9 月 9 日～11 日                                                        | 3 日   |                       |                                 |
| 〃 地区別（一般Ⅰ）                   | 4 月 17 日                                                                | 1 日   | 各所属校<br><br>各地区施設、学校等 |                                 |
| 〃 地区別（一般Ⅱ）                   | 10 月 2 日                                                                | 1 日   |                       |                                 |
| 〃 地区別（カウンセリング）               | 7 月 22 日～8 月 22 日                                                       | 2 日   |                       |                                 |
| 〃 地区別（特別活動等）                 | 9 月 4 日                                                                 | 1 日   |                       |                                 |
| 〃 地区別（社会奉仕等体験）               | 5 月 29 日～11 月 27 日                                                      | 1 日   |                       |                                 |
| 〃 地区別（安全教育）                  | 5 月 15 日                                                                | 1 日   |                       |                                 |
| 2 年次教員フォローアップ研修<br>（教科等指導研修） | 7 月 1 日                                                                 | 1 日   |                       | 教育センター                          |
| 〃（企業体験研修）                    | 7 月 23 日～8 月 22 日                                                       | 2 日   | 各企業等                  |                                 |
| 〃（所属校における研修）                 | 4 月～3 月                                                                 | 30 時間 | 各所属校                  |                                 |
| 5 年経験者研修（校外研修）               | 1 班<br>9 月 6 日、10 月 2 日、21 日<br><br>2 班<br>9 月 13 日、10 月 18 日、10 月 21 日 | 3 日   | 教育センター                | 県立学校教職経験<br><br>5 年を経過した者 40 名  |
| 〃（所属校における研修）                 | 5 月～12 月                                                                | 5 日   | 各所属校                  |                                 |
| 中堅教諭等資質向上研修                  | 4 月 16 日                                                                | 1 日   | 教育センター                | 県立学校教職経験<br><br>10 年を経過した者 63 名 |
| 〃（生徒指導研修）                    | 7 月 4 日                                                                 | 1 日   | 教育センター                |                                 |
| 〃（教科指導研修Ⅰ）                   | 7 月 8 日                                                                 | 1 日   | 教育センター                |                                 |
| 〃（教科指導研修Ⅱ）                   | 2 月 3 日                                                                 | 1 日   | 教育センター                |                                 |
| 〃（マネジメント）                    | 6 月 13 日                                                                | 1 日   | 教育センター                |                                 |
| 〃（特別活動 選択）                   | 9 月 4 日                                                                 | 1 日   | 各所、施設等                |                                 |

### (2) 教員体験研修（2か月）

実施せず

### (3) 職階別中央研修

ア 趣旨

各地域において、中心的な役割を担う校長、副校長・教頭等、中堅教員・次世代リーダー教員及び事務職員を対象として、学校が直面する課題に組織として対応し、特色ある教育活動を自律的に展開したり、当該地域の教職員や学校の学びを高めたりするための学校経営等に資する課題解決力の育成を目指す。

イ 主催 独立行政法人教職員支援機構

ウ 共催 文部科学省

エ 会場 独立行政法人教職員支援機構つくば本部

オ 期間及び参加者

(ア) 校長研修（11月25日～11月29日）

県立相馬農業高等学校校長 志賀 勲

(イ) 副校長・教頭等研修（8月26日～8月30日）

県立福島高等学校教頭 細谷 弘樹

(ウ) 中堅教員・次世代リーダー教員研修

（11月18日～11月22日）

県立福島明成高等学校教諭 佐藤 由紀

### (4) 探究型中央研修

ア 趣旨

「自ら問いを立て、実践の振り返りや対話、知識の習得を重ねながら、実践を展開することで、自他の価値を捉え直し、新たな問いや実践に向かう」持続的なプロセスを提供し、このプロセスを通して、課題を探究する力や探究的な学びをデザインし、マネジメントする力といった、教師にとって中核的（コア）に求められている力を高めることを目的とする。

- イ 主催 独立行政法人教職員支援機構
- ウ 共催 文部科学省
- エ 会場 独立行政法人教職員支援機構つくば本部、オンライン
- オ 期間及び参加者  
◇令和6・7年度探究型中央研修コア研修（2年コース）  
（令和6年7月2日、7月31日～8月2日、令和7年2月12日、令和7年7月～8月、11月～12月、令和8年2月（予定））  
県立磐城桜が丘高等学教頭 新方 浩二  
県立磐城桜が丘高等学教諭 宮内 忠志

**(5) 学校組織マネジメント指導者養成研修**

- ア 趣旨  
各学校や当該地域において指導的な役割を果たすべく、学校ビジョンの構築、学校教育目標の具現化をマネジメントする専門的知見を活用し、組織的な取組を推進する力、各学校や当該地域において、教職員の専門性向上を推進する力を育成することを目的とする。
- イ 主催 独立行政法人教職員支援機構
- ウ 共催 文部科学省
- エ 会場 リアルタイム・オンライン研修
- オ 期間及び参加者（9月24日～9月26日）  
県立喜多方高等学校教頭 小野 拓也

**3 教育課程**

**(1) 高等学校各教科等担当指導主事連絡協議会**

- ア 目的  
高等学校学習指導要領の趣旨の実現を目指し、教育課程の編成及び実施上の諸問題に関する説明、協議、情報交換等を行い、もって高等学校における教育課程の適切な実施を図ることを目的とする。
- イ 主催 文部科学省
- ウ 共催 国立教育政策研究所
- エ 期日 6月24日（月）～28日（金）、7月1日（月）～4日（木）
- オ 会場 国立オリンピック記念青少年総合センター  
（ハイブリッド形式による開催）

カ 参加者

| 部 会     | 氏 名   | 所 属       |
|---------|-------|-----------|
| 総 則     | 梅野 克也 | 高 校 教 育 課 |
| 国 語     | 梶川 光生 | 高 校 教 育 課 |
| 地 理 歴 史 | 佐々木理恵 | 高 校 教 育 課 |
| 公 民     | 近内 正幸 | 高 校 教 育 課 |
| 数 学     | 宗形 聡  | 高 校 教 育 課 |
| 理 科     | 高橋 昌弘 | 高 校 教 育 課 |
| 保 健 体 育 | 渡邊優一郎 | 健 康 教 育 課 |
| 音 楽     | 深田 裕子 | 高 校 教 育 課 |

| 部 会         | 氏 名   | 所 属             |
|-------------|-------|-----------------|
| 美 術 ・ 工 芸   | 茂木 拓  | 教 育 セ ン タ ー     |
| 書 道         | 佐藤 真紀 | 白 河 高 等 学 校     |
| 外 国 語       | 小澤 恵子 | 高 校 教 育 課       |
| 家 庭 （ 共 通 ） | 高橋今日子 | 高 校 教 育 課       |
| 情 報 （ 共 通 ） | 齋藤 亮  | 高 校 教 育 課       |
| 理 数         | 高橋 昌弘 | 高 校 教 育 課       |
| 農 業         | 江川 篤  | 高 校 教 育 課       |
| 工 業         | 佐藤 貴之 | 高 校 教 育 課       |
| 商 業         | 猪狩 晃一 | 高 校 教 育 課       |
| 水 産         | 江川 篤  | 高 校 教 育 課       |
| 家 庭 （ 専 門 ） | 高橋今日子 | 高 校 教 育 課       |
| 看 護         | 高橋今日子 | 高 校 教 育 課       |
| 情 報 （ 専 門 ） | 齋藤 亮  | 高 校 教 育 課       |
| 福 祉         | 高橋今日子 | 高 校 教 育 課       |
| 総合的な探究の時間   | 持舘 智  | 相 双 教 育 事 務 所   |
| 特 別 活 動     | 志賀 光博 | い わ き 教 育 事 務 所 |

**(2) 高等学校各教科等教育課程研究協議会**

- ア 目的  
高等学校学習指導要領の趣旨の実現を目指し、教育課程の編成及び実施上の諸問題に関する研究協議、情報交換等を行い、もって高等学校における教育課程の適切な実施を図ることを目的とする。
- イ 主催 文部科学省
- ウ 共催 国立教育政策研究所
- エ 期日 11月18日（月）～20日（水）、22日（金）、11月25日（月）～29日（金）
- オ 会場 国立オリンピック記念青少年総合センター  
（ハイブリッド形式による開催）

カ 参加者

| 部 会         | 氏 名   | 所 属         |
|-------------|-------|-------------|
| 総 則         | 梅野 克也 | 高 校 教 育 課   |
| 国 語         | 梶川 光生 | 高 校 教 育 課   |
| 地 理 歴 史     | 佐々木理恵 | 高 校 教 育 課   |
| 公 民         | 近内 正幸 | 高 校 教 育 課   |
| 数 学         | 宗形 聡  | 高 校 教 育 課   |
| 理 科         | 高橋 昌弘 | 高 校 教 育 課   |
| 保 健 体 育     | 渡邊優一郎 | 健 康 教 育 課   |
| 音 楽         | 深田 裕子 | 高 校 教 育 課   |
| 美 術 ・ 工 芸   | 茂木 拓  | 教 育 セ ン タ ー |
| 書 道         | 佐藤 真紀 | 白 河 高 等 学 校 |
| 外 国 語       | 小澤 恵子 | 高 校 教 育 課   |
| 家 庭 （ 共 通 ） | 高橋今日子 | 高 校 教 育 課   |
| 情 報 （ 共 通 ） | 齋藤 亮  | 高 校 教 育 課   |

| 部 会       | 氏 名   | 所 属           |
|-----------|-------|---------------|
| 理 数       | 高橋 昌弘 | 高 校 教 育 課     |
| 農 業       | 江川 篤  | 高 校 教 育 課     |
| 工 業       | 佐藤 貴之 | 高 校 教 育 課     |
| 商 業       | 猪狩 晃一 | 高 校 教 育 課     |
| 水 産       | 江川 篤  | 高 校 教 育 課     |
| 家 庭（専 門）  | 高橋今日子 | 高 校 教 育 課     |
| 看 護       | 高橋今日子 | 高 校 教 育 課     |
| 情 報（専 門）  | 齋藤 亮  | 高 校 教 育 課     |
| 福 祉       | 高橋今日子 | 高 校 教 育 課     |
| 総合的な探究の時間 | 持舘 智  | 相 双 教 育 事 務 所 |
| 特 別 活 動   | 志賀 光博 | いわき教育事務所      |

### (3) 福島県高等学校教育課程講習会

#### ア 目的

新高等学校学習指導要領について、その趣旨や内容を説明することにより、各学校において円滑に実施できるようにし、特に観点別学習状況評価について丁寧に説明するとともに、教育課程実施に伴う諸問題について研究協議等を実施することにより、高等学校教育の改善及び充実を図る。

イ 主催 文部科学省及び福島県教育委員会

ウ 期日・会場・各地区参加者数

| 地 区    | 期日   | 会 場       | 参加者数 |
|--------|------|-----------|------|
| 会津・南会津 | 8月1日 | 会津学鳳高等学校  | 96   |
| いわき    | 8月2日 | いわき光洋高等学校 | 226  |
| 県中・県南  | 8月5日 | 清陵情報高等学校  | 99   |
| 県北・相双  | 8月6日 | 福島南高等学校   | 152  |
| 合 計    |      |           | 573  |

#### エ 部会の参加者

設置部会及び参加者数は次の通りである。

| 部 会     | 参加者数 | 部 会   | 参加者数 |
|---------|------|-------|------|
| 総 則     | 31   | 書 道   | 実施せず |
| 国 語     | 61   | 外 国 語 | 66   |
| 地 理 歴 史 | 49   | 家 庭   | 23   |
| 公 民     | 実施せず | 情 報   | 実施せず |
| 数 学     | 65   | 農 業   | 31   |
| 理 科     | 57   | 工 業   | 79   |
| 保 健 体 育 | 64   | 商 業   | 47   |
| 音 楽     | 実施せず | 水 産   | 実施せず |
| 美術・工芸   | 実施せず | 看護・福祉 | 実施せず |
| 合 計     |      |       | 573  |

### (4) 情報教育の充実

#### ア 情報教育研修

(ア) 専門研修 高等学校教育の産業教育及び教育センターの情報処理教育講座の欄参照

(イ) 一般研修 各種研修において情報処理に関する演習等を実施

#### イ 情報処理関係学科の設置状況

|    |        |                      |
|----|--------|----------------------|
| 農業 | 生産情報   | 福島明成                 |
| 工業 | 情報技術   | 郡山北工業                |
|    | 電気情報   | 会津工業                 |
|    | 情報電子   | 福島工業、清陵情報            |
|    | 情報システム | 二本松実業                |
|    | 情報工学   | 平工業                  |
| 商業 | 情報処理   | 郡山商業、清陵情報            |
|    | 情報会計   | 福島南、本宮、清陵情報          |
|    | 情報ビジネス | 福島商業、白河実業、修明<br>若松商業 |
|    | オフィス情報 | 須賀川創英館               |
|    | 情報システム | 平商業                  |
|    | 産業革新   | 小高産業技術               |
| 水産 | 情報通信   | 小名浜海星                |

### (5) 国際理解教育の充実

語学指導等を行う外国青年招致事業

国際化に対応できる人材の育成及び外国語教育の充実

#### ア 招致人数 35 名

#### イ 配 置

(ア) 県内 23 の高校に各 1 名を配置、配置校における指導及び訪問指導

(イ) 県内 9 つの高校に各 1 名、県立中学校に各 2 名配置、専任校における指導

## 4 学力向上対策等

### (1) 令和6年度文部科学省指定各種研究校

| 研究種別                 | 学校名  | 指定年度           | 研究主題                                                                                                                                       |
|----------------------|------|----------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| スーパーサイエンスハイスクール（SSH） | 会津学鳳 | R3<br>～<br>R7  | 新たな社会である Society 5.0 の実現と新たな情報化の時代の創造、及びSDGsの達成に代表される持続可能な社会の形成に貢献する科学者を会津から育成するため、会津大学や会津の企業等の会津の地域資源を活用し、人材育成のための効果的な教育プログラムの研究開発を行う。    |
|                      | 福島   | R4<br>～<br>R8  | 地域発のサイエンスリーダーとして高い探究心を持ち、社会課題を解決できる科学技術人材に必要な5つの資質・能力（探究力・研究力、傾聴力・発信力、完遂力、情報分析力、往還力）を育成するため、4つの研究テーマを設定し、学校設定科目「SS探究」を中心とした研究実践による研究開発を行う。 |
|                      | 安積   | R6<br>～<br>R10 | 3年間を通じて対話型論証を基盤とする探究活動を展開し、国際的な取組に関する教育プログラムや、卒業生の人材活用プログラムの開発を通して「チーム安積モデル」を確立し、生徒の「国際共創力」を育むための研究開発を行う。                                  |

### (2) 「ふくしま高校生学びの变革支援事業」

- ア 未来を担う高校生の資質・能力育成事業  
予備校講師によるレベルの高い授業や難関大学に進学した県内出身の大学生との交流をオンラインで実施し、学力の向上を図るとともに、進路意識の高揚を図り、将来リーダーシップを発揮し社会に貢献できる人材としての礎を築いた。
- (ア) 対象 難関大学進学への意識・意欲の高い県立高等学校1年生及び2年生。
- (イ) 期日  
a 1年生  
令和7年3月21日に開催。  
b 2年生  
令和6年12月14日に開催。
- イ 進路実現のための資質・能力育成事業  
アクティブ・ラーニングの視点も取り入れて、生徒の大学進学へ向けた早期の意識改革と学力向上を図った。

さらには、教員の教科指導力や進学指導力の向上を図るとともに、各学校における指導内容や指導法等について情報共有や連携を進めて、3年間を見通した計画的な指導体制の充実を図った。

対象校 県立高等学校21校

福島、橘、福島西、福島東、安積、安積黎明、郡山東、郡山、須賀川桐陽、白河、白河旭、会津、葵、会津学鳳、喜多方、磐城、磐城桜が丘、いわき光洋、ふたば未来学園、相馬、原町

### ウ 科学の甲子園福島県大会

生徒の理数に関する興味・関心を高めるとともに、意欲ある生徒の再生可能エネルギーの研究開発や放射線医学などを担う能力の育成を図ることを目的に開催した。科学技術・理科・数学等における複数分野の知識・技能を競い合った。

実施日 令和6年11月10日

### (3) 震災と復興を未来へつむぐ高校生語り部事業

#### ア 震災関連学習・語り部活動の人材育成

実践校 県立高等学校18校

福島、安積、安積黎明、あさか開成、岩瀬農業、白河、船引、小野、会津学鳳、会津西陵、南会津、只見、磐城、いわき総合、いわき湯本、ふたば未来学園、相馬、相馬総合

#### イ 県内の学校間での交流

(ア) 対象 実践校18校

(イ) 期日 令和7年1月20日

(ウ) 内容 県伝承館の見学、各実践校の語り部事業の発表、ワークショップ等

#### ウ 県外・海外の学校等との交流

実践校5校が、県外・海外の高校等と交流を行った。

#### エ 震災学習のためのリーフレットの作成・配布

語り部活動の成果をまとめ、交流先へ配布した。

#### オ 伝承館を利用した教員研修

(イ) 県立高等学校の教員を対象とした研修会

a 対象 県立高等学校初任者研修対象教員

b 期日 令和6年11月20日

c 内容 館内見学、フィールドワーク、語り部講話の受講

(イ) 公立小・中学校の教員を対象とした研修会

a 対象 若手教員または校内研修担当教員等

b 実施日 令和6年8月9日、11月25日

c 内容 館内見学、フィールドワークなど

### (4) WWLコンソーシアム構築支援事業

原子力災害からの復興を果たし、持続可能な社会を創造していくグローバル・リーダーの資質・能力の育成に取り組むふたば未来学園中学校・高等学校を拠点校に指定し、探究と海外研修を軸とし、また、大学と連携したグローバル人材育成のカリキュラムの開発・実践、その体制整備を支援した。

ア 事業拠点校 1校

ふたば未来学園中学校・高等学校

イ 事業連携校（県内） 5校

福島、安積、会津、会津学鳳、磐城

ウ 事業連携校（県外） 2校

宮城県仙台二華中学校・高等学校

山形県立東桜学館中学校・高等学校

## (5) グローバル人材育成事業

ア UCLプログラム派遣事業

世界トップクラスの講師陣による講義を体験したり、様々な活動とイベントを通して文化交流したりすることで、挑戦するマインドを構築し、グローバルな視点で、世界や地域の課題解決を図り、「ふくしま」の復興プロセスと未来像を自分の言葉で世界に発信できるグローバル・リーダーを育成することを目的として、ユニバーシティ・カレッジ・ロンドン（UCL）が実施する「UCL-Japan Youth Challenge 2024」へ本県の高校生3名（福島、安積、会津学鳳）を派遣した。

イ トビタテ！留学 JAPAN 拠点形成支援事業

「トビタテ！留学 JAPAN 新・日本代表プログラム」の一環である「拠点形成支援事業」に、地域課題を自分ごととして捉え、海外留学を通じてその解決を探究する人材を育成することを目的とする「ふくしまの未来を担うグローバル人材育成事業」が採択された。地域の産学官が連携し、海外留学と探究型の事前・事後オリエンテーションを組み合わせたプログラムを設計・実施する。これにより、必要な体制と資金を確保し、持続可能な事業の構築を目指す。

令和6年度寄附総額 15,265,000円

## 5 生徒指導・進路指導

### (1) 教育事務所指導主事の活動

県内7地区の教育事務所の指導主事の活動によって生徒指導の充実を図った。

主な活動は次のとおりである。

ア 地区内の高等学校の訪問指導（計画・随時）

イ 地区内の高等学校生活指導協議会の指導・援助

ウ 関係諸機関、諸団体との連携

エ 生徒指導関係の情報と資料の収集

オ 生徒指導関係の諸研修会における指導

### (2) スクールカウンセラーの配置

生徒の問題行動の多様化や深刻化、東日本大震災に伴う心のケアに対応するため、全ての県立高等学校（73校）にスクールカウンセラーを配置した。

## 6 学校行事

### (1) 卒業式

ア 県立高等学校卒業生数

| 性別  | 男     | 女     | 計      |
|-----|-------|-------|--------|
| 課程  |       |       |        |
| 全日制 | 5,251 | 4,919 | 10,170 |
| 定時制 | 68    | 72    | 140    |
| 通信制 | 47    | 88    | 135    |
| 計   | 5,366 | 5,079 | 10,445 |

イ 卒業式実施期日

| 種別   | 全日制 | 定時制 | 通信制 | 計  |
|------|-----|-----|-----|----|
| 日付   |     |     |     |    |
| 3月1日 | 68  | 5   | 0   | 73 |
| 3月9日 | 0   | 0   | 1   | 1  |
| 計    | 68  | 5   | 1   | 74 |

ウ 県知事、県議会議長、県教育長臨席校

県知事臨席校 3月1日 須賀川桐陽高等学校  
岩瀬農業高等学校

県議会議長臨席校 福島東高等学校

県議会副議長臨席校 安積高等学校

県教育長臨席校 葵高等学校

南会津高等学校（南郷校舎）

### (2) 修学旅行（県立高等学校）（ ）は前年度

ア 参加生徒総数 10,181人（10,325人）

イ 参加率 97.8%（94.4%）

ウ 行先

| 行先            | 校数      |
|---------------|---------|
| 県内            | 0 (0)   |
| 北海道           | 0 (2)   |
| 北海道・東北        | 0 (0)   |
| 東北            | 0 (0)   |
| 東北・関東         | 0 (0)   |
| 東北・北陸         | 0 (0)   |
| 北陸            | 2 (0)   |
| 北陸・近畿         | 0 (1)   |
| 関東            | 0 (1)   |
| 関東・中部         | 0 (0)   |
| 東海            | 0 (0)   |
| 近畿（奈良・京都・大坂等） | 41 (53) |
| 中国・近畿         | 20 (11) |
| 近畿・四国         | 0 (4)   |
| 近畿・四国・中国      | 0 (0)   |
| 九州            | 1 (4)   |
| 沖縄            | 4 (2)   |
| 四国            | 0 (0)   |
| 中部・東海         | 0 (0)   |
| 海外            | 2 (0)   |

|      |             |          |            |
|------|-------------|----------|------------|
| エ    | 航空機利用       | 19校      | (23校)      |
| (内訳) | 北海道方面       | 0校       | (2校)       |
|      | 大阪方面        | 12校      | (10校)      |
|      | 九州方面        | 1校       | (4校)       |
|      | 沖縄方面        | 4校       | (2校)       |
|      | 広島          | 0校       | (1校)       |
|      | 兵庫          | 0校       | (4校)       |
|      | 海外          | 2校       | (0校)       |
| オ    | 泊日数         |          |            |
|      | 1泊2日        | 0校       | (0校)       |
|      | 2泊3日        | 2校       | (1校)       |
|      | 3泊4日        | 65校      | (75校)      |
|      | 4泊5日        | 3校       | (2校)       |
| カ    | 必要経費        |          |            |
|      | 生徒一人当たりの最高額 | 189,900円 | (145,000円) |
|      | 最低額         | 82,878円  | (43,060円)  |
|      | 平均額         | 110,325円 | (105,311円) |
| キ    | 引率責任者       |          |            |
|      | 校長          | 29校      | (27校)      |
|      | 副校長         | 2校       | (1校)       |
|      | 教頭          | 39校      | (50校)      |
|      | 教諭          | 0校       | (0校)       |

## 7 産業教育

### (1) 県産業教育フェア

令和6年度は実施せず。

### (2) 第35回全国産業教育フェア

|   |         |                  |                         |
|---|---------|------------------|-------------------------|
| ア | 実行委員会   |                  |                         |
|   | 第1回     | 5月27日(月)         | 杉妻会館                    |
|   | 第2回     | 2月12日(水)         | 杉妻会館                    |
| イ | 生徒実行委員会 |                  |                         |
|   | 第1回     | 6月19日(水)         | ビッグパレットふくしま             |
|   | 第2回     | 7月24日(水)         | 福島商業高校                  |
|   | 第3回     | 8月21日(水)         | 福島商業高校                  |
|   | 第4回     | 9月27日(金)         | オンライン                   |
|   | 第5回     | 12月13日(金)        | ビッグパレットふくしま             |
| ウ | ブレ大会    |                  |                         |
|   | 商業      | 10月19日(土)        | ふくしま県高校生観光ビジネスアイデアコンクール |
|   | 家庭      | 11月9日(土)～10日(日)  | 福島県高校生クッキングコンテスト        |
|   | 工業      | 11月18日(月)～19日(火) | 全国高等学校ロボット競技大会福島大会      |
|   | 農業      | 12月10日(火)        | フラワーアレンジメントコンテスト        |

### (3) 文部科学省主催の研修講座と内容

|    |                                     |
|----|-------------------------------------|
| ア  | 令和6年度産業・情報技術等指導者養成研修                |
| 家庭 | 8月20日(火)～22日(木)<br>全国高等学校長協会家庭部会事務局 |
| 情報 | 8月5日(月)～7日(水)                       |

|    |                                                                                                                                                           |
|----|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|    | 大阪公立大学                                                                                                                                                    |
| 工業 | 8月20日(火)～23日(金)<br>金沢工業大学                                                                                                                                 |
| イ  | 令和6年度産業教育実習助手研修                                                                                                                                           |
| 水産 | 7月29日(月)～8月2日(金)<br>北海道大学函館キャンパス                                                                                                                          |
| ウ  | 令和6年度学校農業・家庭クラブ連盟指導者養成講座<br>第64回全国高等学校家庭クラブ指導者養成講座<br>8月3日(木)～4日(金)<br>国立オリンピック記念青少年総合センター<br>令和6年度学校農業クラブ指導者養成講座<br>8月6日(火)～8日(木)<br>国立オリンピック記念青少年総合センター |

## 8 学校訪問

### (1) 目的

指導主事等が県立学校を訪問し、関係者とともに授業研究や教科の指導に関する研究協議を行うことにより、学習指導等の充実を図る。

### (2) 訪問校

5年経験者研修、又は中堅教諭等資質向上研修の該当者の勤務する学校から数校を選定する。

### (3) 訪問学校一覧

|            |      |
|------------|------|
| 福島商業高等学校   | 商業   |
| 福島明成高等学校   | 農業   |
| 福島南高等学校    | 外国語  |
| 二本松実業高等学校  | 理科   |
| 郡山北工業高等学校  | 工業   |
| 清陵情報高等学校   | 工業   |
| 白河実業高等学校   | 農業   |
| 会津高等学校     | 保健体育 |
| 会津西陵高等学校   | 保健体育 |
| 会津農林高等学校   | 家庭   |
| 平工業高等学校    | 数学   |
| いわき湯本高等学校  | 国語   |
| ふくしま新世高等学校 | 定通   |

## 9 県立学校学校教育指導委員

| 教科名   | 氏名    | 職名 | 学校名         |
|-------|-------|----|-------------|
| 国語    | 宮内 忠  | 教諭 | 磐城桜が丘高等学校   |
| 数学    | 景山 健太 | 教諭 | 福島西高等学校     |
| 理科    | 高橋 里美 | 教諭 | 橘高等学校       |
| 保健体育  | 星 謙一  | 教諭 | 郡山商業高等学校    |
|       | 武藤小夜子 | 教諭 | 川口高等学校      |
| 外国語   | 塩田 陸  | 教諭 | ふたば未来学園高等学校 |
| 家庭    | 青木 教子 | 教諭 | 郡山北工業高等学校   |
| 農業・水産 | 伊藤 正樹 | 教諭 | 修明高等学校      |
|       | 藤原 忍  | 教諭 | 相馬農業高等学校    |
| 工業    | 半澤 幸祐 | 教諭 | 二本松実業高等学校   |
|       | 鈴木 康雅 | 教諭 | 白河実業高等学校    |

| 教科名 | 氏 名   | 職名 | 学 校 名    |
|-----|-------|----|----------|
| 商業  | 中里 充  | 教諭 | 南会津高等学校  |
| 定通  | 宮田 真弥 | 教諭 | 白河第二高等学校 |

(13 名)

## 10 教育研究団体

### (1) 福島県高等学校長協会

組織

令和6年度福島県高等学校長協会役員名簿

| 役職名  | 氏 名          |
|------|--------------|
| 会 長  | 丹 野 純 一 (福島) |
| 副会長  | 森 下 陽一郎 (安積) |
| 副会長  | 遠 藤 利 晴 (会津) |
| 副会長  | 平 澤 洋 介 (磐城) |
| 副会長  | 中 野 茂 (原町)   |
| 監 査  | 佐々木 理 夫 (福西) |
| 監 査  | 味 原 正 美 (福南) |
| 事務局長 | 小 林 寿 宣 (福東) |

| 支部  |            |             |
|-----|------------|-------------|
| 支部  | 支部長        | 副支部長        |
| 県 北 | 丹野 純一 (福島) | 菊池 直之 ( 橘 ) |
|     |            | 山内 義美 (福工)  |
| 県 南 | 森下陽一郎 (安積) | 黒川 佳子 (黎明)  |
|     |            | 増子 文隆 (白河)  |
| 会 津 | 遠藤 利晴 (会津) | 尾形 幸男 ( 葵 ) |
|     |            | 近東 昇 (喜桐)   |
| いわき | 平澤 洋介 (磐城) | 渡邊 学 (桜丘)   |
|     |            | 赤坂 剛 (い支)   |
| 相 双 | 中野 茂 (原町)  | 郡司 完 (ふ未)   |
|     |            | 佐藤 秀美 (相馬)  |

| 理事会 |            |             |
|-----|------------|-------------|
|     | 氏 名        |             |
| 理事会 | 丹野 純一 (福島) | 菊池 直之 ( 橘 ) |
|     | 森下陽一郎 (安積) | 酒井 祐治 (福商)  |
|     | 遠藤 利晴 (会津) | 鈴木 憲治 (明成)  |
|     | 平澤 洋介 (磐城) | 山内 義美 (福工)  |
|     | 中野 茂 (原町)  | 田母神賢一 (萌世)  |
|     | 小林 寿宣 (福東) | 西村 則昌 (聴支)  |
|     |            | 渡邊 亮 (田村)   |

専門委員会 (◎印 委員長 ○印 副委員長)

| 専門委員会             | 氏 名         |             |
|-------------------|-------------|-------------|
| 管 理<br>運 営<br>委員会 | ◎中村 充幸 (福北) | ○太田 隆明 (い総) |
|                   | 丹野 純一 (福島)  | 小林 寿宣 (福東)  |
|                   | 高野 敦史 (郡山)  | 近東 昇 (喜桐)   |
|                   | 高橋 敏幸 (南会)  | 星 輝光 (小海)   |
|                   | 中村 康伸 (相総)  | 大橋 隆史 (須支)  |
| 教 育<br>課 題<br>委員会 | ◎軽部 英敏 (あ開) | ○伊藤 勝宏 (安達) |
|                   | 渋川 卓也 (須創)  | 五十嵐健博 (川口)  |
|                   | 伊藤 靖隆 (只見)  | 平澤 洋介 (磐城)  |
|                   | 荒川 俊一 (勿工)  | 田母神賢一 (萌世)  |
|                   | 佐藤 清悦 (視支)  | 西村 則昌 (聴支)  |
|                   | 本田 知史 (だ支)  | 杉本 雅昭 (た支)  |
|                   | 渡部 孝男 (平支)  | 千葉 秀樹 (ふ支)  |

| 専門委員会                    | 氏 名         |             |
|--------------------------|-------------|-------------|
| 生 徒<br>指 導<br>委員会        | ◎志賀 勲 (相農)  | ○野口 智行 (湖南) |
|                          | 川島 孝夫 (松実)  | 阿部 拓広 (修明)  |
|                          | 國分 孝男 (会農)  | 長南 国彦 (平工)  |
|                          | 渡邊 浩志 (平商)  | 西牧 辰典 (大支)  |
|                          | 鈴木 龍也 (あ支)  | 田中久美子 (石支)  |
| 教 育<br>課 程<br>委員会        | 猪俣 康彦 (会支)  |             |
|                          | ◎高橋 文彦 (白旭) | ○伊藤 光司 (会西) |
|                          | 味原 正美 (福南)  | 金成 智子 (伊達)  |
|                          | 渡邊 亮 (田村)   | 遠藤 利晴 (会津)  |
|                          | 滝田 勝彦 (猪代)  | 佐藤 秀雄 (好間)  |
| 高 校<br>入 試<br>検 討<br>委員会 | 渡邊 武彦 (い翠)  |             |
|                          | ◎亀田 光弘 (船引) | ○郡司 完 (ふ未)  |
|                          | 鈴木 憲治 (明成)  | 加藤 香洋 (川俣)  |
|                          | 小針 幸雄 (光南)  | 浅野 猛 (白実)   |
|                          | 小川 和英 (石川)  | 猪俣 豊 (喜方)   |
| 大 学<br>入 試<br>対 策<br>委員会 | 名嶋 明宏 (西会)  | 阿部 学 (い湯)   |
|                          | 櫻田 渉 (勿来)   | 中野 茂 (原町)   |
|                          | ◎佐々木理夫 (福西) | ○齋藤 靖 (郡東)  |
|                          | 菊池 直之 ( 橘 ) | 森下陽一郎 (安積)  |
|                          | 黒川 佳子 (黎明)  | 櫻井 克彦 (須桐)  |
| 就 職<br>指 導<br>対 策<br>委員会 | 増子 文隆 (白河)  | 尾形 幸男 ( 葵 ) |
|                          | 吉田 洋子 (学鳳)  | 渡邊 学 (桜丘)   |
|                          | 猪股 一教 (い光)  | 佐藤 秀美 (相馬)  |
|                          | ◎鈴木 哲 (郡北)  | ○山内 浩 (郡商)  |
|                          | 酒井 祐治 (福商)  | 山内 義美 (福工)  |
| 人 権<br>教 育<br>委員会        | 永山 広克 (清陵)  | 高橋 豊治 (岩農)  |
|                          | 中野 正人 (若商)  | 佐藤 正道 (会工)  |
|                          | 岡部 富洋 (磐農)  | 津田 直子 (四倉)  |
|                          | 佐竹 建城 (小産)  | 齋藤 成子 (郡支)  |
|                          | ◎和田 直也 (本宮) | ○植田 貴子 (相支) |
| 部会長                      | 原田 大輔 (小野)  | 小川 令子 (西支)  |
|                          | 渡邊 幹男 (猪支)  | 赤坂 剛 (い支)   |
|                          |             |             |

| 部会長     |              |
|---------|--------------|
| 部 会     | 氏 名          |
| 普 通 部 会 | 菊池 直之 ( 橘 )  |
| 商 業 部 会 | 酒井 祐治 (福島商業) |
| 農 業 部 会 | 鈴木 憲治 (福島明成) |
| 工 業 部 会 | 山内 義美 (福島工業) |
| 水 産 部 会 | 星 輝光 (小名浜海星) |
| 家 庭 部 会 | 金成 智子 (伊達)   |
| 定 通 部 会 | 田母神賢一 (郡山萌世) |
| 特別支援部会  | 西村 則昌 (聴覚支援) |
| 理 数 部 会 | 増子 文隆 (白河)   |
| 英語国際部会  | 味原 正美 (福島南)  |
| 体 育 部 会 | 渡邊 亮 (田村)    |
| 総合学科部会  | 中村 充幸 (福島北)  |

| 全国校長会 |             |
|-------|-------------|
| 部 会   | 氏 名         |
| 理 事   | 丹野 純一（福島）   |
| 理 事   | 遠藤 利晴（会津）   |
| 理 事   | 平澤 洋介（磐城）   |
| 管理運営  | 中村 充幸（福島北）  |
| 教育課題  | 軽部 英敏（あ開）   |
| 生徒指導  | 志賀 勲（相馬農業）  |
| 教育課程  | 高橋 文彦（白河旭）  |
| 大学入試  | 佐々木理夫（福島西）  |
| 就職対策  | 鈴木 哲（郡山北工業） |
| 人権教育  | 和田 直也（本宮）   |

## (2) 福島県高等学校教育研究会

ア 財政及び組織の状況

(ア) 本部

令和6年度福島県高等学校教育研究会

| 役職名 | 氏 名    | 所属校・職名     |
|-----|--------|------------|
| 会 長 | 味原 正美  | 福島南高等学校長   |
| 副会長 | 高橋 文彦  | 白河旭高等学校長   |
| 副会長 | 猪俣 豊   | 喜多方高等学校長   |
| 監 査 | 鈴木 憲治  | 福島明成高等学校長  |
| 監 査 | 酒井 祐治  | 福島商業高等学校長  |
| 委 員 | 渡邊 学   | 磐城桜が丘高等学校長 |
| 委 員 | 軽部 英敏  | 光南高等学校長    |
| 委 員 | 森下 陽一郎 | 安積高等学校長    |

|     |        |            |
|-----|--------|------------|
| 委 員 | 山内 義美  | 福島工業高等学校長  |
| 委 員 | 酒井 祐治  | 福島商業高等学校長  |
| 委 員 | 櫻井 克彦  | 須賀川桐陽高等学校長 |
| 委 員 | 中村 康伸  | 相馬総合高等学校長  |
| 委 員 | 和田 直也  | 本宮高等学校長    |
| 委員  | 森下 陽一郎 | 安積高等学校     |
| 幹 事 | 斎藤 慶   | 福島南高等学校教頭  |

(イ) 部会

| 部会名  | 部会長氏名 | 所属校・職名     | 会員数 |
|------|-------|------------|-----|
| 養護教諭 | 渡邊 学  | 磐城桜が丘高等学校長 | 110 |
| 保健体育 | 軽部 英敏 | あさか開成      | 435 |
| 理 科  | 猪俣 豊  | 喜多方高等学校長   | 386 |
| 音 楽  | 森下陽一郎 | 安積高等学校長    | 74  |
| 農 業  | 鈴木 憲治 | 福島明成高等学校長  | 219 |
| 工 業  | 山内 義美 | 福島工業高等学校長  | 631 |
| 商 業  | 酒井 祐治 | 福島商業高等学校長  | 266 |
| 定 通  | 佐藤 正道 | 会津第二高等学校長  | 151 |
| 英 語  | 櫻井 克彦 | 須賀川桐陽高等学校長 | 447 |
| 数 学  | 高橋 文彦 | 白河旭高等学校長   | 426 |
| 家 庭  | 中村 康伸 | 相馬総合高等学校長  | 116 |
| 情報   | 森下陽一郎 | 安積高等学校長    | 48  |
| 美術工芸 | 和田 直也 | 本宮高等学校長    | 82  |

○令和6年度予算 136,603 円

## 第4節 文化活動の振興

高校生の芸術文化活動の充実向上を図るため、福島県高等学校文化連盟に対する助成を行った。

けんしん郡山文化センターにて、福島県高等学校総合文化祭活動優秀校公演を開催した。

### (1) 芸術文化活動発表機会の充実

ア 福島県高等学校文化連盟への助成

福島県高等学校総合文化祭の開催に対する補助を行った。（補助対象事業費計：8,498 千円、補助金額計：1,000 千円）

(ア) 令和6年度福島県高等学校文化連盟

役員

| 役 職 名    | 氏 名   | 職   | 所 属 校      |
|----------|-------|-----|------------|
| 会 長      | 黒川 佳子 | 校 長 | 安積黎明高等学校   |
| 副会長(私 立) | 森 涼   | 校 長 | 学法石川高等学校   |
| 副会長(県 北) | 金成 智子 | 校 長 | 伊達高等学校     |
| 副会長(県 南) | 高橋 豊治 | 校 長 | 岩瀬農業高等学校   |
| 副会長(会 津) | 吉田 洋子 | 校 長 | 会津学鳳高等学校   |
| 副会長(いわき) | 渡邊 浩志 | 校 長 | 平商業高等学校    |
| 副会長(相 双) | 佐竹 建城 | 校 長 | 小高産業技術高等学校 |
| 理 事 長    | 三條 敦  | 教 諭 | 安積黎明高等学校   |
| 事務局長     | 藤井 克憲 | 教 諭 | 安積黎明高等学校   |

| 役職名 | 氏 名   | 職    | 所 属 校      |
|-----|-------|------|------------|
| 監 事 | 和田 直也 | 校 長  | 本宮高等学校     |
| 監 事 | 飯豊 利子 | 教 諭  | 郡山高等学校     |
| 幹 事 | 原 義治  | 教 諭  | 会津学鳳高等学校   |
| 幹 事 | 川前 拓也 | 教 諭  | 小高産業技術高等学校 |
| 幹 事 | 櫛田みゆき | 教 頭  | 安積黎明高等学校   |
| 幹 事 | 難波 幸生 | 教 諭  | 安積黎明高等学校   |
| 幹 事 | 清野 志保 | 教 諭  | 安積黎明高等学校   |
| 幹 事 | 本田 亜希 | 教 諭  | 安積黎明高等学校   |
| 幹 事 | 馬場 浩身 | 実習教諭 | 安積黎明高等学校   |
| 顧 問 | 高橋 喜智 | 課 長  | 高校教育課      |

専門部会長・専門部委員長

| 専 門 部       | 部会長   | 職   | 所属校    | 部委員長  | 職   | 所属校           |
|-------------|-------|-----|--------|-------|-----|---------------|
| 演 劇         | 平澤 洋介 | 校 長 | 磐城     | 小林 俊一 | 教 諭 | 磐城            |
| 高音連         | 阿部 学  | 校 長 | いわき湯本  | 小山田 浩 | 教 諭 | いわき湯本         |
| 合 唱         | 黒川 佳子 | 校 長 | 安積黎明   | 星 英一  | 教 諭 | 安積黎明          |
| 吹奏楽         | 中村 康伸 | 校 長 | 相馬総合   | 今野 貴文 | 教 諭 | 相馬総合          |
| 器楽管弦楽       | 山内 浩  | 校 長 | 郡山商業   | 鈴木 敦  | 教 諭 | 郡山商業          |
| 日本音楽        | 星 輝光  | 校 長 | 小名浜海星  | 深谷 恵子 | 教 諭 | 小名浜海星         |
| 吟詠剣詩舞       | 千葉 義夫 | 校 長 | 昌 平    | 大橋 未緒 | 教 頭 | 昌 平           |
| 郷土芸能        | 志賀 勲  | 校 長 | 相馬農業   | 佐藤 規慶 | 教 諭 | 相馬農業          |
| マーチングB・バトンT | 小針 幸雄 | 校 長 | 光 南    | 横田 日夏 | 教 諭 | 光 南           |
| 美術・工芸       | 和田 直也 | 校 長 | 本 宮    | 中原 勝  | 教 諭 | 福 島           |
| 書 道         | 中村 康伸 | 校 長 | 相馬総合   | 阿部祐太郎 | 教 諭 | 相馬総合          |
| 写 真         | 吉田 洋子 | 校 長 | 会津学鳳   | 永峯 秀明 | 教 諭 | 会津学鳳          |
| 放 送         | 太田 隆明 | 校 長 | いわき総合  | 西塔 佳正 | 教 諭 | いわき総合         |
| 囲 碁         | 菊池 直之 | 校 長 | 橘      | 佐原 輝明 | 教 諭 | ふくしま新世 (保原校舎) |
| 将 棋         | 丹野 純一 | 校 長 | 福 島    | 渡辺 洋生 | 教 諭 | 福 島           |
| 弁 論         | 遠藤 利晴 | 校 長 | 会 津    | 猪俣小百合 | 教 諭 | 会 津           |
| 小倉百人一首かるた   | 黒川 佳子 | 校 長 | 安積黎明   | 本間 奏恵 | 教 諭 | 安積黎明          |
| 新 聞         | 森下陽一郎 | 校 長 | 安 積    | 石山 智恵 | 教 諭 | 安 積           |
| 文 芸         | 高野 敦史 | 校 長 | 郡 山    | 近内富美子 | 教 諭 | 郡山東           |
| 自然科学        | 猪俣 豊  | 校 長 | 喜多方    | 今野 直樹 | 教 諭 | 相 馬           |
| 農 業         | 高橋 豊治 | 校 長 | 岩瀬農業   | 二瓶恵梨香 | 教 諭 | 岩瀬農業          |
| 工 業         | 鈴木 哲  | 校 長 | 郡山北工業  | 阿部 真紀 | 教 諭 | 郡山北工業         |
| 商 業         | 酒井 祐治 | 校 長 | 福島商業   | 渡邊 貴  | 教 諭 | 福島商業          |
| 家 庭         | 中村 充幸 | 校 長 | 福島北    | 渡邊ひとみ | 教 諭 | 福島北           |
| 定 通         | 渡邊 武彦 | 校 長 | いわき翠の杜 | 野口 修  | 教 諭 | いわき翠の杜        |
| 特別支援学校      | 本田 知史 | 校 長 | だて支援   | 羽根真美子 | 教 諭 | だて支援          |
| J R C       | 高野 敦史 | 校 長 | 郡 山    | 吾妻 久  | 教 諭 | 郡 山           |

イ 第43回福島県高等学校総合文化祭

県内高校生の文化活動の成果発表と相互の交流を目的として、全県内において、令和6年5月から令和6年12月まで、専門部の行事を開催した。

ウ 第48回全国高等学校総合文化祭東京大会への参加

本県からは、17部門に141名の生徒が参加した。

〔参加部門〕

吹奏楽、日本音楽、吟詠剣詩舞、郷土芸能、美術・工芸、書道、写真、放送、囲碁、将棋、弁論、小倉百人一首かるた、新聞、文芸、自然科学、郷土研究

エ 令和6年度福島県高文連専門部全国大会入賞状況

(ア) 団体

| 専 門 部                 | 大 会 名                                    | 成 績                                                   | 学 校 名 |
|-----------------------|------------------------------------------|-------------------------------------------------------|-------|
| 郷土芸能                  | 太鼓祭 第6回七人制和太鼓選手権大会                       | 女子の部準優勝、一般の部準優勝                                       | 帝京安積  |
| マーチングバンド・<br>バトントワリング | 全国高等学校ダンスドリル選手大会 2024                    | KICK 部門 3 位、PROP 部門 3 位、DRILL POM<br>部門 Medium 編成 2 位 | 郡山商業  |
|                       | 全国高等学校ダンスドリル選手大会 2024                    | KICK 部門 2 位、MILITARY 部門 2 位                           | 郡 山   |
|                       | 全国高等学校ダンスドリル選手大会 2024                    | DRILL POM 部門 Small 編成 3 位                             | 学法石川  |
| 自然科学                  | 第 48 回全国高等学校総合文化祭                        | 自然科学部門物理分野研究発表 文化庁長官賞                                 | 安 積   |
|                       | 第 48 回全国高等学校総合文化祭                        | 自然科学部門ポスター発表研究発表 文化庁長官賞                               | 会津学鳳  |
| 吹奏楽                   | 第 72 回全日本吹奏楽コンクール                        | 銅賞                                                    | 磐 城   |
| 合唱                    | 全日本合唱コンクール 2024                          | 金賞 (B グループ)                                           | 会 津   |
|                       | 第 91 回NHK全国学校音楽コンクール                     | 銀賞                                                    | 会 津   |
|                       | 全日本合唱コンクール 2024                          | 銀賞 (B グループ)                                           | 郡 山   |
|                       | 全日本合唱コンクール 2024                          | 銀賞 (A グループ)                                           | 安積黎明  |
| 器楽・管弦楽                | 第 13 回日本学校合奏コンクール 2024 グランド<br>コンテスト全国大会 | 最優秀賞                                                  | 郡山商業  |
| 新聞                    | 第 48 回全国高等学校総合文化祭                        | 新聞部門優良賞                                               | 相 馬   |
| 文芸                    | 第 39 回全国高等学校文芸コンクール                      | 文芸部誌部門優秀賞 一ツ橋文芸教<br>育振興会賞                             | 磐 城   |
|                       | 第 39 回全国高等学校文芸コンクール                      | 文芸部誌部門優秀賞                                             | 磐城桜が丘 |

(イ) 個人

| 専 門 部  | 大 会 名                                     | 成 績                   | 学 校 名 | 氏 名   |
|--------|-------------------------------------------|-----------------------|-------|-------|
| 書道     | 第 48 回全国高等学校総合文化祭                         | 書道部門奨励賞               | 橘     | 齋藤きあり |
|        | 第 48 回全国高等学校総合文化祭                         | 書道部門特別賞・菅公賞           | 白河    | 鈴石 沙耶 |
| 器楽・管弦楽 | 第 13 回日本学校合奏コンクール 2024 ソロ&アンサン<br>ブルコンテスト | 優秀賞                   | 安積黎明  | 村上 陽彩 |
| 文芸     | 第 39 回全国高等学校文芸コンクール                       | 小説部門 優秀賞              | 橘     | 田村 美結 |
|        | 第 39 回全国高等学校文芸コンクール                       | 詩部門 優良賞               | 磐城    | 佐藤 昊世 |
|        | 第 39 回全国高等学校文芸コンクール                       | 短歌部門 優良賞              | 昌平    | 渡邊 紗月 |
| 特別支援学校 | 令和 6 年度第 31 回全国特別支援学校文化祭                  | 全国特別支援学校病弱<br>教育校長会長賞 | 須賀川支援 | 大瀧 愛  |

オ 令和6年度福島県高等学校文化連盟表彰

(ア) 優秀団体

| No. | 団 体 名      | 所属校名  | 専 門 部             | 全国大会での成績                                                                     |
|-----|------------|-------|-------------------|------------------------------------------------------------------------------|
| 1   | チアリーディング部  | 郡山商業  | マーチングバンド・バトントワリング | 全国高等学校ダンスドリル選手権大会 2024<br>KICK 部門 3 位、PROP 部門 3 位、DRILL POM 部門 Medium 編成 2 位 |
| 2   | チアダンス部     | 郡山    | マーチングバンド・バトントワリング | 全国高等学校ダンスドリル選手権大会 2024<br>KICK 部門 2 位、MILITARY 部門 2 位                        |
| 3   | チアリーディング部  | 学法石川  | マーチングバンド・バトントワリング | 全国高等学校ダンスドリル選手権大会 2024<br>DRILL POM 部門 Small 編成 3 位                          |
| 4   | 物理部        | 安積    | 自然科学              | 第 48 回全国高等学校総合文化祭自然科学部門物理分野研究発表 文化庁長官賞                                       |
| 5   | SSH 探求部化学班 | 会津学鳳  | 自然科学              | 第 48 回全国高等学校総合文化祭自然科学部門物理分野研究発表 文化庁長官賞                                       |
| 6   | 合唱部        | 会津    | 合唱                | 全日本合唱コンクール 2024 (B グループ) 金賞<br>第 91 回 NHK 全国学校音楽コンクール 銀賞                     |
| 7   | 和太鼓部       | 帝京安積  | 郷土芸能              | 太鼓祭 第 6 回七人制和太鼓選手権大会 女子の部準優勝、一般の部準優勝                                         |
| 8   | 文学部        | 磐城    | 文芸                | 第 39 回全国高等学校文芸コンクール 文芸部誌部門 優秀賞、一ツ橋文芸教育振興会賞                                   |
| 9   | 文芸部        | 磐城桜が丘 | 文芸                | 第 39 回全国高等学校文芸コンクール 文芸部誌部門 優秀賞                                               |

(イ) 優秀個人

| No. | 氏 名   | 所属校名  | 専 門 部 | 全国大会での成績                                   |
|-----|-------|-------|-------|--------------------------------------------|
| 1   | 田村 美結 | 橘     | 文芸    | 第 39 回全国高等学校文芸コンクール 小説部門 優秀賞               |
| 2   | 大瀧 愛  | 須賀川支援 | 美術    | 令和 6 年度第 31 回全国特別支援学校文化祭 全国特別支援学校病弱教育校長会長賞 |

(ウ) 優秀指導者

| No. | 氏 名   | 所属校名 | 専 門 部 | 全国大会での成績                                                                                              |
|-----|-------|------|-------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1   | 木村 哲也 | 会津西陵 | 定通    | 会津第二高等学校にて、生徒生活体験発表大会指導歴 10 年。第 71 回 (令和 5 年度) 全国高等学校定時制通信制生徒生活体験発表大会全国大会にて NHK 会長賞 (全国第 3 位) 受賞に導いた。 |